

附属病院の アメニティ改善への想い

奈良県立医科大学附属病院 病院長 古家 仁

本学附属病院は、A棟、B棟、C棟、精神医療総合センター、中央検査棟＋旧がんセンターという大きな5つの建物によって成り立っています。その中で現在中央検査棟＋旧がんセンターの部分を新しく新手術棟に建て替えるべく工事が進んでいます。この工事は平成28年まで続きますが、大きな特徴は、増加するがん患者に対する放射線療法、化学療法、手術療法の充実、小児・周産期医療の充実です。最新のリニアックの新設、リハビリテーション部、化学療法室、緩和ケアセンターの充実を図り実施します。手術に関してわが国の手術件数は年々増加しており、本学も例外ではありません。米国では年間2千万件以上の全身麻酔による手術が行われています。わが国ではまだ250万件くらいです。米国と同じような道を進むかどうかはまだ不明ですが手術件数は現在の倍以上にはなるでしょう。そしてそれに対応すべく本学でも広くて新しい設備も備えた手術室になります。

工事の中に現在の外来部分を含めた全体的な改築も含まれています。エスカレーターも設置の予定です。そして現在平成28年の完成を視野に入れてアメニティ改善も着々と進んでいます。総合受付の移設、床部分の貼り換え、案内



表示の明確化、院内緑化(エコロジーガーデンの導入)など、患者さんが受診しやすく満足度の高い外来になるように計画しています。

本学では平成28年が一つの節目になります。さらに大学本部等の移転、外来棟の新設など、これからの10年で本学はますます充実し、さらに今以上に大きく飛躍する礎を築くことができると思います。

Contents

附属病院のアメニティ改善への想い.....	1	■クラブ紹介(野球部・Livewire部).....	12
■第2期中期計画の達成に向けて.....	2~3	■図書館だより.....	13
入学式式辞.....	4	■平成24年度公立大学法人奈良県立医科大学決算.....	14~15
■新入生挨拶/オリエンテーション/ ボランティア活動に被災地から感謝の言葉.....	5	■平成25年度科研費補助金決定.....	16~18
■叙勲を受章/■文部科学大臣表彰受賞/ ■看護功労者知事表彰受賞.....	6	■医療倫理講習会開催案内/■産学官連携だより.....	19
■(株)タカトリと産学連携に関する包括協定を締結/■寄附講座 「スポーツ医学講座」開設/■寄附講座「血圧制御学講座」設置 期間延長.....	7	■総合研究棟開設20周年記念事業講演会開催報告 ■院内中央通路(西側)開通/■自衛消防・防災隊本部隊運用訓練 実施報告.....	20
■研究紹介(細菌学).....	8	■絵画寄贈/■医療メデイエーション室紹介/ ■海外渡航者外来を開設.....	21
■第2年次編入学試験(地域基盤型医療教育コース、研究医養成 コース)を実施/■大学院医学研究科博士課程で秋入学を実施/ ■平成26年度大学院入試日程.....	9	■看護職員リクルートチーム活動報告/ ■緩和ケアセンターでの取り組み紹介.....	22
■基礎医学棟5F組織実習室改修報告/■看護学科メンタルヘルス サポートシステムの紹介/■看護学科アドバイザー制、担当制を 開始/■チェンマイ大学との国際交流.....	10	■看護師インターンシップ・採用試験実施日程 ■部門紹介(中央手術部・高度救命救急センター(ICU、HCU)).....	23
■オープンキャンパス開催案内/■ひらめき☆ときめきサイエンス ~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI /■大学院看護学研究科 オープンキャンパス開催報告.....	11	■フレッシュマン紹介.....	24~25
		■公開講座開催案内/■中島佐一学術研究奨励賞授賞式/ ■敍権学術奨励賞表彰式.....	26
		■レポート.....	27
		メディア掲載情報/下ツ道/広告.....	28

第2期中期計画の達成に向けて

第2期中期計画(平成25～30年度)は、前号でお知らせしたとおり、学内関係各位のご支援・ご協力により完成し、3月29日に奈良県知事から認可を受けました。今号は、その全容をご紹介します。

計画では、第1期と同じく大学の基本的な役割である「教育」「研究」「診療」「法人運営」の各要素を網羅した上で、懸案である教育・研究部門の移転計画や臨床医学研究棟等の改築を盛りこみました。

さらに、「地域貢献」「まちづくり」を新たに柱立てし、先の4つの分野とともに大きく6つの分野とし、県の支援の下、県内公立病院等への医師配置、看護師の県内就職率の向上、「医大を中心としたまちづくり」への参画などに取り組むこととしています。

教職員のみなさんには、趣旨・内容をご理解のうえ、計画達成に向け引き続きご協力をお願いします。

I 地域貢献

1. 医療人の育成(医師関連)

医師派遣システムの適切な実行(仮称)県立医大医師派遣センター、(仮称)県費奨学生配置センターの設置・運営)

- ・教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。
- ・(仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。

2. 医療人の育成(看護師関連)

(仮称)看護実践・キャリア支援センターを設置・運営する等、看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。

3. 看護師の地域貢献

認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。

4. 研究成果等の地域への還元

住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。

5. 健康増進の県民アプローチの充実

市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。

6. 断らない救急医療体制の整備

県内の救急医療に関する諸機関の連携体制のもと、重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として断らない救急医療の実現に取り組む。

7. 周産期医療体制の強化

総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。

8. 他の医療機関との連携強化

各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。

9. 県内医療人への助言・指導

県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルスラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献する。

II 教育

1. リベラルアーツ教育の実践

医の心をもった医療人の育成・医療経営に関する教育の確保
カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。

2. 教育内容の評価

教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development)*活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。

3. 老朽・狭隘施設への対策

新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。

III 研究

1. 研究の適切な成果評価

研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。

2. 有能な研究者の獲得

研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。

3. 健康・予防医療等研究範囲の拡大

MBT 構想* や奈良県健康長寿コホートスタディ* 等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。

4. 研究環境の改善

新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。(再掲: II -3)

Ⅳ 診療

1. 医師・看護師等の離職防止と人材確保

医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。

2. がん拠点病院としての機能の充実

都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。

3. 治療成績の一層の向上

(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標 (Clinical Indicator) を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。

4. 患者満足の一層の向上

医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。

5. 老朽・狭隘施設への対策

附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設 (臨床医学研究棟・臨床研修センター等) の早期改築を行う。

Ⅴ まちづくり

1. 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備

平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。

2. 地域に開かれたキャンパスづくり

新キャンパスの構想計画においては、交流広場や緑地等の地域との交流を図る施設、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等を設置し、県民への開放に努める。

3. 教育・研究部門等移転後の跡地活用

現キャンパス跡地においては、憩いの広場、診療関連施設、新外来棟等の整備計画を推進するとともに、医大が進めるMBT構想を踏まえ、県と市のまちづくりのランドデザインに沿った「医療、介護、福祉が連携した健康まちづくり」の整備計画に参画する。

4. 移転を契機とした研究分野での地域貢献

新キャンパスにおいては、(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置等、一定規模の産学官連携ゾーンを整備し、県や市と連携しながら、医農商工連携の一層の推進に寄与する。また、他大学との共同大学院構想を策定し、研究部門の強化を図る。

5. 健康づくり・予防医療等への貢献

MBT構想や奈良県健康長寿コホースタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。(再掲:Ⅲ-3)

Ⅵ 法人運営

1. ガバナンス体制の充実強化

中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。

2. ワークライフバランスの充実強化

医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入によるワークライフバランスの改善等により、仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築を図る。

3. 同窓会・歴代卒業生との連携

同窓会や卒業生との連携・交流を強化し、母校愛の育成と協力意識の向上を図るとともに、大学移転を踏まえた教育・研究環境の整備・充実のため、広く寄附を募る。

4. 繰越欠損金の解消

県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。

※FD (Faculty Development) …教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。

※MBT構想…奈良医大を中心としたまちづくり (MBT:Medicine-Based Town) による地域貢献。

※奈良県健康長寿コホースタディ…県下全域を対象とした健康長寿を維持させる要因を多面的に研究する疫学調査 (対象10,000名の構想)。

中期計画の達成は、
大学・附属病院運営のさらなる発展・
飛躍、地域貢献のために不可欠です。

計画達成に向け、
ご協力よろしく
お願いいたします。



平成 25 年度入学式式辞 「EBMと共にNBMを学べ」

学長 吉岡 章

校庭や飛鳥川の堤の桜が諸君の入学式まで持ち堪えてくれたかのような春爛漫のこの良き日に、医学部医学科 113 名、医学部看護学科 85 名、看護学科 3 年次編入学生 5 名、合計 203 名の晴れやかな入学生諸君を、この奈良県立医科大学に迎えることができたのは、私どもの大きな喜びとするところであります。入学生諸君に対し、心から「おめでとう」と申し上げると共に、大学を代表して歓迎の意を表します。

この晴れの日を迎えられたのは、何よりも諸君のたゆまぬ勉強と夢に向かっての飽くなき向上心が功を奏したものと大変うれしく思います。加えて、厳しく、かつ温かく指導して下さった小学校、中学校、高等学校、そして予備校の先生方、さらに愛情に満ちた応援を惜しまなかったご両親・ご家族や友人のお陰であることも、忘れないで下さい。

本学は、6 年前の平成 19 年に独立行政法人化し、公立大学法人 奈良県立医科大学となりました。従来の公立・県立の良い点と民間の良い点をうまくハイブリッド化することを図ったものであります。新しい法人は、第 1 期中期計画の実行に専心、努力した結果、概ね順調に進捗しているとの評価を受けています。この 4 月からは、第 2 期中期計画の 6 年間に入りました。更なる本学の発展を目指して、これまで位置づけていた「教育」、「研究」、「診療」、「法人運営」に加えて、「地域貢献」と「まちづくり」を新たな分野として位置づけました。

本学が県立医科大学として、いかに良い医師、看護師を育成し、いかに多くの医師、看護師が意欲を持って奈良県の医療に従事するかを図ることが「地域医療貢献」であります。その達成のための重要な施策の一環として、平成 33 年には医学科・看護学科の教育・研究部門を、ここから南西約 1km の現 県農業総合センターに新築移転することや、老朽化施設の現敷地内改築も決定されています。そして、移転後の跡地では、奈良県や橿原市と共に、医学・医療・福祉をベースとした新しい「まちづくり」が計画されています。

私はかねてより、本学が目指すところを的確に表現するものとして「glocal」という言葉を用いています。glocal とは、global と local を合わせた合成語であります。glocal の意味するところは、地域のために尽して働くという地域貢献を果たしつつ、同時に、より高く世界に飛躍して、その高度な医学の成果をより広く社会に還元して行くことであります。これからわが奈良医大は、名実共に glocal に大発展を遂げて参ります。

さて、諸君がこれから本学で学び、一生をかけて研鑽する医学・看護学は、1980 年代に欧米で誕生した EBM(Evidence-based Medicine)「根拠に基づいた医療」という新しい概念に沿って行われます。

EBM は、医療の質に対する社会の関心の高まりを背景に、わが国にも導入され、今や医学・医療の基本的概念となっています。従来の主として経験による医療から、科学的に信頼性の高い研究によって生まれた evidence に基づいた医療へ、と大きく変遷して来ており、今や、この考え方は各医学会が策定する診療ガイドラインへと繋がっています。本学では、常にこの EBM に基づいた医学・看護学を教授して参ります。諸君は常にこの EBM を取り入れて勉強を重ねることになります。

一方、医療を受ける側の患者さん一人一人には、自らの人生があります。また、それぞれの病気には一つ一つの物語 (Narrative) があります。その物語を患者と医師・看護師が大切に共有する



ことで「医療」を実践しようという考え方があります。これが NBM(Narrative-based Medicine) であります。Narrative の Narra は、奈良・大和のナラのつづり (Nara) ではなく、Narra であります。発音の上では同じ「Nara」であります。

私は今、EBM と NBM の 2 つを挙げました。この両者は、一見対立的な概念であるかのようにですが、決してそうではありません。EBM と NBM は互いに補完し合うものとして位置づけることができます。両者は、医師と患者、あるいは患者と看護師の出会いから始まる「対話」、そして、共に手を携えて病を克服して行く共同作業を完遂するのにふさわしい、必要不可欠な車の両輪のようなものであります。どうか諸君、ここ奈良県立医科大学の 6 年間、4 年間で Science としての医学、即ち EBM と、人と人との対話としての医療、即ち NBM の両者を深く学んで下さい。

ところで、諸君が学ぶここ奈良・大和の地は、日本の歴史と文化の発祥の地であります。今からちょうど 1300 年と 1 年前の 712 年に、元明 (げんめい) 天皇の詔勅 (みことのり) により太安万呂が稗田阿礼の口誦するところを筆録、即ち文字にし、日本最古の歴史書「古事記」を編纂しました。「古事記」の序文によれば、阿礼は天武天皇の舎人 (とねり) として仕えていました。阿礼は極めて聡明で、目に触れたものは即座に言葉にすることが出来、耳に触れたものは心に留めて忘れることがなかったといえます。そこで、28 歳のとき、記憶力の良さを見込まれて天皇の日嗣 (ひつぎ) である「帝紀」と先代の「旧辞」の暗誦を命じられました。「帝紀」とは、初代神武天皇から第 33 代推古天皇までの天皇や皇后、皇子、皇女の系譜やその主な出来事等で、「旧辞」とは、宮廷内の物語、皇室や国家の起源に関する話をまとめたものであります。

私は先週、大和郡山市の稗田の里を久しぶりに訪れました。実は、私の母はこの稗田で生まれ育ちました。また、母方の祖父は、稗田阿礼の市井の研究者でした。稗田地区は現存する小さな環濠集落で、大和棟の母の実家やお墓、そして阿礼を祀った賣太 (めた) 神社にお詣りし、しばし、母や母方の祖先、そして阿礼のことに思いを馳せていました。

まさに阿礼こそ、多くの人々が文字を使えなかった 7～8 世紀に口誦、即ち、物語ること、Narrative を通じて、日本の歴史と文化を後々まで伝え、わが国の始まりを現代に生きる私達まで伝えてくれた人なのです。私はここに Narrative、物語ることの大切さと素晴らしさに改めて思い致すと共に、その物語がここ奈良・大和の地から始まったことに誇りを感じています。まさに医療の原点を見る思いであります。

どうか諸君、諸君の青春の日々の中で、人から人へ物語ること、即ち、対話を通じて物と心を伝えることの大切さを学んで下さい。医師として、看護師として、医学における EBM(Evidence-based Medicine) と共に、医療における NBM(Narrative-based Medicine) を深く学んで下さい。

諸君の学生生活の安全と豊かならんことを祈ります。

新入生挨拶

医学科 ^{みよし とちひろ} 三好 智浩



4月某日、大和八木駅にて、「奈良医大の校門までお願いします！飛ばして下さい！」「今日は…入学式ですよ？？」「あ、はい(笑)」

私達一回生が奈良医大に入学することを祝福するかのよう満開に咲き誇る桜、雲一つない晴れ渡った空、そして入学式に遅れる私。

そんな私も今では教育支援課の方、先輩、同級生の支えによってすっかり大学生活にも慣れ、これからの6年間に期待を膨らませる毎日です。私達は、医大生としての自覚を持ち、医学的知識や経験の習得のみならず、患者さんの立場になって考えることのできる医者となれるよう弛まぬ努力を続ける所存です。

先生方、先輩方、ご指導の程よろしくお願いします。

看護学科 ^{のむら ひでたか} 野村 秀孝



柔らかく暖かな風に舞う桜とともに、私たちは奈良県立医科大学に入学しました。入学式から3ヶ月がたち、ようやく大学の生活に慣れてきた今日。予想以上の課題に追われ、机に向かう日々が続いています。一人一人の目標は少しずつ異なりますが、医療従事者になるという志を持ち、学年全員で支えあい、有意義な大学生活を送りたいと思います。

新入生オリエンテーションを行いました

医学科では、113名の新入生を対象に、4月4日の入学宣誓式を終えた後にガイダンスを行い、翌5日から6日にかけて、宇陀市の「美榛苑」で1泊2日の課外研修を行いました。課外研修では、新6年生5名と本学を卒業し、附属病院に勤務されている3名の先生にもご参加いただき、医師としての生活や、学生時代の思い出についてインタビュー形式でお話をうかがいました。入学式から3日間のオリエンテーションで、先輩方からの貴重な話により、医学部に入学した実感を得られ、また、新入生同士は、他己紹介という形で交流を深めることで緊張もほぐれていたようです。

看護学科では、90名の新入生(編入3年生5名を含む)を対象に、4月4日午後から5日の2日間にわたってガイダンスを行いました。ガイダンスでは、履修の仕方や学生生活関連の説明を聞き、学生会の学生を中心に行われたレクリエーションでは、多くの質問が新入生から寄せられて盛り上がっていました。「クラブや選択科目、勉強方法、留学制度、国試、アルバイトについて」など高

校生時代に体験することのなかったことに関する質問が多く、新入生はこれから始まる大学生生活に期待を膨らませていました。

医学科、看護学科とも、新入生同士はもちろん、先輩との交流も深まり、新しい大学生活に向けて充実した時間を過ごせたのではないかと思います。



ボランティア活動に被災地から感謝の言葉

東日本大震災の被災地で、ボランティア活動を継続している医学科3年生の中務智彰君の活動が福島県の地元紙「福島民報」に掲載されました。記事の中で、中務君の活動内容や経歴が紹介され、福島への熱い思いに感謝の言葉が述べられています。また、福島県立医科大学の大戸学長から吉岡学長に中務君の活動に対する感謝の手紙が届いています。

医学科3年 中務 智彰

5月3日から5日の3日間、福島県内でボランティア活動を行いました。

今回は、公的な機関が運営しているボランティアとNPOが行っている、作付けのできない畑に菜の花を植えるというプロジェクトのお手伝いをしました。いずれも避難解除準備区域である福島県南相馬市小高区で行われているもので、復興どころか復旧も十分には進んでいない地域でした。ひとりができることは小さなも

のですが、被災地を想う心を何らかの形に変えることが大切なのだと思います。

川内村では、福島県立医科大学の大谷晃司准教授に引率していただき、保健福祉課長、保健師、村会議員から震災直後の状況、福島第一原発の爆発がおこり全村避難となった際の経緯、現在の川内村の保健福祉行政の状況などについてお話を伺いました。原発20km圏内から避難してくる住民の受け入れをしつつ自分たちも避難を始めなければならぬ、当時は情報も少なく混乱した状況だったようです。今なお村内の保健施設の機能が震災前の状態までは回復せず、医療サービスが十分には提供できていません。原発事故後の国の政策が村の国民健康保険や介護保険に影響しているなど、解決し難い多くの問題をかかえています。8月には、本学学生が和歌山県立医科大学の学生と合同で福島県内においてボランティア活動を行う予定で、今後も福島県立医科大学の学生との交流を続けていきます。

叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～

叙勲は、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。

去る、4月29日に平成25年春の受章者の発令があり前経営審議会委員の大手信重氏、前看護師長の竹下京子氏が受章されました。心からお祝い申し上げます。

- 旭日双光章 大手 信重 氏 (前経営審議会委員)
- 瑞宝単光章 竹下 京子 氏 (前看護師長)

平成25年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を大崎特任教授が受賞されました

文部科学省は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もってわが国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めています。

平成25年度の「科学技術分野の文部科学大臣表彰」に本学皮膚科学講座の大崎茂芳特任教授（前化学教授）が科学技術賞（理解増進部門）で受賞者に決定され、4月16日に文部科学省において表彰を受けられました。

科学技術賞は、わが国の科学技術分野において顕著な功績をあげた者を対象としており、大崎特任教授の業績である「クモの糸から学ぶサイエンスの普及啓発」が自然との

触れ合いを通じて科学的発想を培うという観点から、社会におけるサイエンスの普及啓発に寄与したものと評価されました。



吉岡学長に受賞を報告された大崎茂芳特任教授

平成25年度看護功労者知事表彰を受賞されました

緑薫る5月11日（土）奈良県看護研修センターで、私たち3名は平成25年度看護功労者知事表彰を受賞させていただきました。謹んで御礼申し上げます。同じ学び舎で看護の道を目指し共に巣立った3名が同時に表彰していただけたことは、大変光栄に存じます。長い年月を看護師として続けてこられたのは、家族の協力・支えはもちろんのこと、友人・患者さんに頑張る力を与えていただいたからだと思い、改めて感謝いたします。日々元気にスクラム組んで、これからも、看護の後継者を育み、共に成長し、出会う全ての人々に慈愛の心で接し、生き

る力を引き出す励ましの心光る看護を実践してまいる決意です。この度は本当にありがとうございました。

NICU 師長 辻本啓子/C病棟8階 主任 柳原佳世子
外来1F 主任 増田 栄



左から、柳原佳世子主任、増田栄主任、辻本啓子師長

(株)タカトリと産学連携に関する包括協定を締結しました

本学と株式会社タカトリは、平成 25 年 6 月 10 日にタカトリ本社において、吉岡章理事長と北村吉郎代表取締役社長が出席して調印式を開催し、両者の間で産学連携に関する包括協定を締結しました。本学としては民間企業との初めての包括協定となります。

本協定は、相互の資源（人的・物的資源、知的財産等）を出し合い、新たなイノベーションの創出に取り組み、学術及び産業の振興と地域の発展に寄与することを目的として、(1) 教育及び人材育成に関すること、(2) 研究、開発に関すること、(3) 施設の利用に関すること、(4) 地域貢献に関すること、(5) その他、双方が必要と認める事項について連携・協力するものとしています。

吉岡理事長と株式会社タカトリの北村社長の双方が協定書に署名した後、吉岡理事長からは、「本協定の締結を機会に、タカトリの新社屋の一画の提供を受け、スポーツ医学講座の研究分室を設けることとなったこと等、以前から取り組んで

来た同社との産学連携を一層強力に推進し、地域の活性化につなげていきたい」と、北村社長からは、「医大のニーズにタカトリの技術を活かし、健康長寿社会の実現に役立つ医療機器の開発に挑戦していきたい」と、本協定締結に係る抱負が語られました。



調印後、協定書を披露する本学吉岡理事長（左）と株式会社タカトリ北村代表取締役社長



調印式出席者（前列左から本学吉岡理事長、(株)タカトリ高鳥代表取締役会長、後列左から本学熊井スポーツ医学講座教授、小西産学官連携推進センター長、(株)タカトリ北村代表取締役社長、増田取締役営業本部長）

寄附講座「スポーツ医学講座」を開設

平成 25 年 4 月に学校法人栗岡学園からのご寄附による寄附講座「スポーツ医学講座」を開設しました。本学では、「住居医学講座（平成 18 年度開設）」、「血栓制御医学講座（平成 21 年度開設）」、「血圧制御学講座（平成 22 年度開設）」、「人工関節・骨軟骨再生医学講座（平成 23 年度開設）」に次ぐ 5 番目の寄附講座になります。

■ 寄附講座「スポーツ医学講座」の概要

- ・研究領域 スポーツ傷害の病態解明および低侵襲治療法の開発・臨床応用
- ・寄附講座教員 教授 熊井 司(前 整形外科学 講師)
助教 小川 宗宏(現 整形外科学 助教)
※小川助教は寄附講座助教を兼務
- ・講座開設期間 平成 25 年 4 月 1 日～
平成 31 年 3 月 31 日（6 年間）

- ・寄附者 学校法人 栗岡学園
(大阪府四條畷市田原台 6 丁目 1 番地 1 号)
- ・寄附総額 1 億 2 千万円（6 年間）

■ 寄附講座で今後取り組む研究内容

スポーツ傷害の中でも特に難治性とされるオーバーユース障害の病態解明と、アスリートにとって重要な早期復帰を可能ならしめる低侵襲治療法の開発およびその臨床および基礎研究を行います。その中でも近年、早期のスポーツ・社会復帰を可能にする低侵襲手術法として注目されつつある内視鏡・関節鏡を用いた鏡視下手術の技術開発を行い、その有効性についての検証を進めていきます。

またスポーツ現場での傷害予防への取り組みとして、アスレチックトレーナーの養成、スポーツドクターとの連携を深めるための組織作りおよび地域健康スポーツ施設での傷害予防教育にも積極的に取り組んでいきます。

寄附講座「血圧制御学講座」の設置期間を延長

平成 22 年 4 月 1 日から 3 年間の設置期間で「血圧制御学講座」を寄附講座として開設していますが、MSD 株式会社からのご寄附により設置期間を平成 25 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで 3 年間延長しました。

■ 延長後の寄附講座「血圧制御学講座」の概要

- ・研究領域 食塩と高血圧発症の関係の解明に関する研究
- ・寄附講座教員 教授 斎藤 能彦
講師 染川 智
助教 尾上 健児
※斎藤第一内科学教授は寄附講座教授を兼務
- ・講座延長期間 平成 25 年 4 月 1 日～
平成 28 年 3 月 31 日（3 年間）
(当初は平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日の 3 年で設置)

- ・寄附者 MSD 株式会社
(東京都千代田区九段北一丁目 13 番 12 号 北の丸スクエア)
- ・寄附総額 6 千万円（平成 25 年度～ 27 年度 3 年間）

■ 同講座設置期間延長の経緯

当初、万有製薬株式会社からの寄附により寄附講座「血圧制御学講座」を平成 22 年度から平成 24 年度の 3 年間で設置。

今回は、万有製薬株式会社とシェリング・プラウ株式会社の統合後の MSD 株式会社から、同講座の 3 か年における研究実績を高く評価いただき、更なる研究の進展を期待し、同講座の設置期間を 3 年延長するための寄附を申し出いただいたものです。

研究生活を振り返って

～基礎研究成果の世界に向けての発信は楽しく面白い～

細菌学 教授 喜多 英二

大学を去るに当たり、私の研究スタート時代の思い出を紹介させていただきます。若い研究者の方々や学生さん達に、地道に基礎研究を続けながら、その成果を絶えず世界に向けて発信し続けることは、苦労ばかりでなく大いなる喜びがあり、楽しい思い出も沢山残せると言うことを、少しでもお伝えしたいとの思いからであります。

私の研究歴の始まりは、ネズミチフス症をモデルにした「細胞内寄生菌感染に対する感染免疫」に取り組んだ、学部5年生の時であります。結核、腸チフスに代表される細胞内寄生菌感染に対しては、「弱毒株の生菌だけが防御免疫を付与できる」と云うのが当時の常識でした。大学院入学後、ネズミチフス菌の各種菌体成分を分離・精製し、マウス免疫応答の比較を行いました。驚くことに、同菌の菌体内リボゾーム画分(RF)に生菌免疫と同等の長期に持続する感染防御・細胞性免疫誘導能が認められたのです。当時としては常識はずれの結果でした。それでも、その成果を初めて英語でまとめ、米国微生物学会(ASM)機関誌である *Infection & Immunity* に投稿したのは、大学院3年の時でした。驚くべきことに、3人のレフェリーからは称賛のコメントのみで、全く修正要求もなく accept されたのです(現在までの110編余りの国際誌論文発表で、この様な査読結果はこの時だけ、まさしく beginner's luck でした)。後日、その年のASM年次総会(Boston, 1978年9月)会長から、この成果を invited speaker's session で講演する様に招請されたのです。駆け出しの私が、世界的権威を持つASMにおいて、初めて英語で45分間の講演に挑戦するチャンスを得たのです。私にとって、これがどれほどの恐怖であったか、学生時代にリングフォン(ソノシート英会話教材)と中学3年間のリーダーズテキストだけで独学で身に付けた英語が通じるのか、専門家の質問に答えられるのか、出発前は次々と不安に襲われ眠れぬ日々でした。幸いにも無事に発表を終え、多くの厳しい質問も何とか切り抜け、盛大な拍手の中降壇できたことを、今も鮮明に記憶しております。この経験が、研究の面白さ・楽しさ、世界に向けてその成果を論文発表することの意義を、私に教えてくれたのです。

この研究成果には、後に二つの大きな国際的研究発展が控えておりました。第一は、当時の結核免疫の第一人者であった Youmans G.P. (Northwestern 大学教授) らが、結核菌 RF に BCG と同等の効果があることを認め、1980



年代後半にアフリカで WHO との共同臨床試験で、その有効性を確認したことです。しかし、その後10年近くの間、RFの免疫原性の機序が不明で、多くの研究者がRF研究から去りました。そんな折、私達はネズミチフス菌RF免疫マウスの血中に、或る特異抗体の存在を見出し、対応抗原を分離しました。本抗原(後年、ribosome 付着サルモネラ特異的43kD蛋白と同定された)とrRNAの混合ワクチンにはRFと同等の免疫能があり、この蛋白抗原に特異的なTh1細胞を誘導することが確認できたのです。rRNAが本蛋白抗原のアジュバントとして作用し、サルモネラ特異的細胞性免疫を付与していることを、早速 *Immunology* (1987年)に投稿しました。2編からなる論文も、幸いにも共に一回のマイナー修正のみで受理されました。この時も、欧州免疫学連合会から翌年春の総会で、「Cutting Edge: Today's Immunological Feature of Microbial RNA」と題して特別講演の招請を受けました。第二の発展は、1990年後半におけるToll分子の発見から相次いで見出されたTLRs、NODs、NLRs等により、pattern recognition receptor (PRR)の概念が確立され、細胞内微生物RNAに対するPRR(NLR3)の存在も樹状細胞内に同定され、微生物RNAのアジュバント機能が実証されたことです。嬉しかったのは、2005年の免疫学会(横浜)で、NLR研究の第一人者であるNuñez G教授(Michigan大学)にお会いした時、「Prof. KitaのサルモネラRF研究が、私の細胞質内PRR研究のスタートラインでした」と聞かされたこと、Michigan大学で「Immunogenic Microbial RNA」の講演にご招待頂いたことでした。

基礎研究は決して華やかなものではありません、しかし研究成果を世界に発信し、他の研究者がその成果を新しい展開に繋げてくれた時、その喜びは何物にも代えがたいものになることを、私は研究生活の初期に体験できました。一人でも多くの医学生諸君がこの様な喜びを味わってくださることを、心から待ち望んでおります。

第2年次編入学試験(地域基盤型医療教育コース、研究医養成コース)を実施しました

6月23日に実施された第2年次編入学試験(地域基盤型医療教育コース)は、卒業後に奈良県内で地域医療に貢献しようとする強い意欲を持つ者1名を選抜するもので、在学中は「奈良県医師確保修学研修資金」の貸与を受けます。

基本的なカリキュラムは一般入学生と変わりませんが、編入学生は地域医療に貢献する医師としてのキャリアパスを構築するため、「教育開発センター」「地域医療学講座」の教員のもとで、定期的な面談等による指導、実習を行います。

卒業後は医師免許を取得し、前期臨床研修を終えた後の一定期間は、地域医療に貢献する医師として活躍すること

が期待されています。

一方、第2年次編入学試験(研究医養成コース)は、奈良県立医科大学と早稲田大学、関西医科大学が連携協力して教育・研究活動の一層の充実と質の向上を図り、学術の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的として締結した教育連携に基づき、早稲田大学先進理工学部の学生で基礎医学・社会医学系研究医を志望する者の中から2名を選抜するもので、6月22日に選抜試験が実施されました。

両コースに合格した学生は9月から第2年次に編入学し、解剖実習等のカリキュラムを履修することとなります。

大学院医学研究科博士課程で秋入学を実施します

博士課程では、毎年度、4月入学を行ってききましたが、平成25年度からは新たに秋入学を実施することになりました。これにより、入学時期が4月と10月の2回になります。

入学試験も4月入学の年2回とは別に、秋入学のための入学試験を1回行います。

医学研究科の博士課程は昭和35年の設置以来、時代の変化や社会の要請にあわせた改革を行っており、平成16年4月には3専攻7領域に再編し、定員も24名から40名に増員しています。また、社会人の履修期間を6年まで

延ばせる長期履修制度や優れた研究業績を上げた者には、3年の在学期間で修了可能となる早期修了制度を導入する等、大学院生の実情を考慮した制度の充実を図っています。

今回の秋入学の実施により、年1回の入学時期が2回に増え、早期の入学および修了が可能となります。

秋入学の願書出願期間は7月22日(月)～7月26日(金)、入学試験は8月12日(月)です。秋入学を検討されている方は教育支援課教務係(内線2716)まで、ご連絡ください。

平成26年度 大学院入試日程

大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7	第一次募集: 平成25年9月24日(火)～9月27日(金) 第二次募集: 平成26年1月14日(火)～1月17日(金)	第一次募集:10月15日(火) 第二次募集:2月3日(月)	第一次募集:11月12日(火) 第二次募集:3月5日(水)
生体情報・病態制御医学専攻	13			
生体分子・機能再建医学専攻	20			

●社会人の入学も可能です。社会人とは企業、研究所、病院(本学附属病院の医員も含む)、官公庁等に勤務している者です。

●平成26年度の秋入学の日程は平成26年度に発表します。

大学院医学研究科(修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5	第一次募集: 平成25年9月2日(月)～9月6日(金) 第二次募集: 平成26年1月27日(月)～1月31日(金)	第一次募集:9月24日(火) 第二次募集:2月14日(金)	第一次募集:10月8日(火) 第二次募集:3月5日(水)

●社会人の入学も可能です。但し平成26年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。

大学院看護学研究科(修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学専攻 看護学コース	5	第一次募集: 平成25年7月22日(月)～7月25日(木) 第二次募集: 平成25年11月5日(火)～11月8日(金)	第一次募集:8月22日(木) 第二次募集:12月3日(火)	第一次募集:9月3日(火) 第二次募集:12月10日(火)
看護学専攻 助産学実践コース	5			

●社会人の入学も可能です。但し平成26年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。

●助産学実践コースは、修学中は学業に専念できる者。

基礎医学棟 5 階組織実習室を改修しました !!

医学部医学科では平成 20 年度入学生からの緊急医師確保枠 (13 名) 及び定員増 (5 名) により定員が段階的に増員され、平成 22 年度からは 113 名の入学定員となっています。それに伴い既存の教室や実習室の座席数や顕微鏡等の教育用備品が不足するため、教育支援課では順次施設の改修や備品の追加購入を行ってきました。

今年度は基礎医学棟 5 階の組織実習室の座席数を 26 名分増設し、138 名まで収容できるようになりました。写真は改修後の様子です。教育支援課では、今後も教育環境の改善に積極的に取り組んでいきます。



看護学科メンタルヘルス・サポートシステムの紹介

精神看護学 教授 軸丸 清子

本学の学生カウンセリングルームは、学生の生活サポートとして、平成 21 年に開設されました。当初は、心理カウンセラー (非常勤) と学生生活部会の教員が、それぞれ月 2 回ずつ放課後に駐在するという体制でスタートしました。そして、平成 24 年からはカウンセラー (非常勤) の駐在時間が拡大されて、月 6 ~ 8 回、13 時 ~ 18 時となり、少しずつではありますが、体制が整いつつあります。

看護学科に入学してくる学生は、その多くが高校卒業直後の 18 歳であり、本学での 4 年間の課題は、看護職としてのアイデンティティを獲得し、国家試験に合格することです。それに際しては、学生自身のこれまでの人生における課題の乗り越え方と積み残してきた心理的な課題が問題となり急浮上してくることがあります。

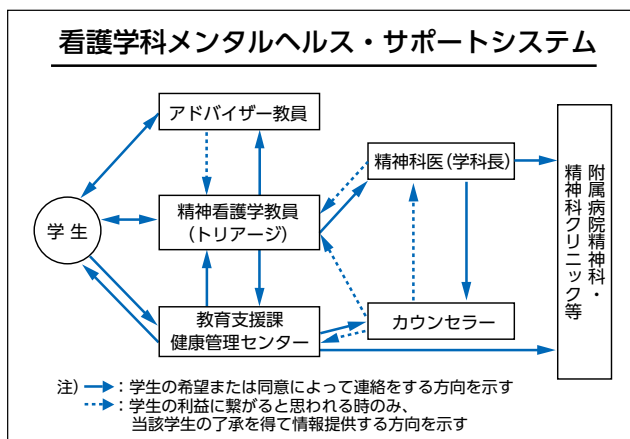
本学科では、こうした心理的な危機状況にある学生に対して、平成 23 年から、担当課である教育支援課と連携しながらカウンセラーに繋ぐことに力を注いできました。それに当たっては、精神看護学教員が窓口となり、薬物等の治療が必要であると思われる学生については、精神科医である本学科の学科長に、カウンセリングが適当であると思われる学生については、カウンセラーに繋ぐというトリアージ的な役割を果たしてきました。一方、入学時に行った健康調査の結果から、健康管理センターが教育支援課を通じて学生に連絡し、カウンセラーに繋ぐ場合もあります。

看護学科と関係部署との連携が始まって 2 年、現在では、ほぼ安定して図のようなサポートシステムが形成されているように思われます。そして、このシステムができたことによって、学生の心理的な問題の水準に応じた効果的なサポートが提供できているように感じています。

勿論、全てのケースがこのルートをとるわけではなく、学生が直接教育支援課に申し込み、カウンセラーに繋がる場合もあります。最近はこちらの学生が増えてきており、目指すところは学生自身による主体的なカウンセラーの活用です。



カウンセリングの様子



看護学科の「アドバイザー制」と「学年担当制」開始！

看護学科学生生活部会 城島 哲子

看護学科は必修科目が多くカリキュラムが過密なために、専門科目の必修単位を 1 つでも修得できないと臨地実習の履修要件を失ってしまいます。そのために休学・退学を余儀なくされる学生も少なくありません。そこで、従来のプリセプター制度 (4 学年を縦断した担当制) を改変しました。1 年生には「アドバイザー制」を導入

し教員が少人数の学生を担当し学生支援を行います。2 年生・3 年生には 3 名の「学年担当」教員を配置して学生の相談に当たります。4 年生には「看護研究」を担当する教員が研究指導を行う中で、進路や就職、国家試験対策の相談に対応します。このような学生支援体制によって今まで以上に細やかに学生ニーズを捉え、早期対応することを目指しています。

チェンマイ大学との国際交流

今回で 14 回目となるタイのチェンマイ大学への学生の派遣が、平成 25 年 3 月 31 日から 4 月 7 日の日程で実施されました。派遣された学生は、医学科 6 年生 (派遣当時 5 年生) の北野泰斗さん、藤本浩輔さん、古山達大さん、矢野優太さんの 4 名です。現地での研修だけでなく、学生との交流や古都チェンマイの視察と充実した日々を過ごしたようです。

参加した学生からは、「チェンマイ大学での実習は向こうの学生がどのような感じで勉強しているかを見ることができ、刺激をもらえます。日本とは異なった教育システムを学ぶことはとてもいい経験になると思います。チェンマイの学生はとても僕たちのことを歓迎

してくれ、本当に楽しい時間を過ごすことができました」との感想が寄せられています。

今年度も 11 月頃に参加学生の募集を行いますので、是非応募してください。

後列左から藤本浩輔さん、古山達大さん、矢野優太さん、北野泰斗さん



オープンキャンパス 2013 を開催します

●医学科 8月3日(土) ●看護学科 8月4日(日)

今年も恒例のオープンキャンパスを開催します。
日程は、医学科は8月3日(土)、看護学科は8月4日(日)に行います。

毎年、全国から多くの方が参加され、好評をいただいております。今年には、新たに2つの企画を用意しており、一つ目は学生のアイデアからデザインされた大学オリジナルバッグなどを参加者に配付、二つ目は秋に行われる大学祭「白樺生祭」において学生と共同でミニオープンキャンパス(10/26(土))を開催する予定です。実施にあたりまして、関係の皆様のご協力をお願いします。



【日時】	医学科 8月3日(土) 13:00～17:00 看護学科 8月4日(日) 13:00～17:00
【場所】	奈良県立医科大学 大講堂等
【対象】	受験生、高校生、保護者、教員、その他どなたでも参加できます
【内容】	・学長講演 吉岡 章 学長「医師・看護師をめざす諸君へ」 ・学科紹介 ・模擬ミニ講義 3日 病原体・感染防御医学 教授 吉川 正英 「解④新書-身近な食物から旅行まで-」 4日 小児看護学 教授 川上 あずさ 「乳児期の子どもの理解-身体機能の発達-」 ・先輩からのメッセージ ・施設見学(※事前申込制) ・相談コーナー

学生ボランティア募集中

オープンキャンパスには多数の方の参加が見込まれますので、当日の受付、施設見学、個別相談等のお手伝いをしてもらえる在校生を募集しています。ボランティアの受付は教育支援課厚生・入試係で行っていますので、ご協力をお願いします。

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI



この事業は、研究機関で行っている最先端の科学の研究成果について、児童・生徒の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムです。

今年も、産婦人科学講座と循環器システム医科学が独立行政法人日本学術振興会の採択を受けて開催します。

テーマ1 命を創る子宮とそれを脅かす病～どうしたら病気にならないか～(産婦人科学講座)

日 時：平成 25 年 8 月 3 日(土) 10:00～17:30、8月4日(日) 10:00～17:30
場 所：奈良県立医科大学基礎医学棟 4階小講義室
対 象：高校2年生・3年生 各日 20名(女性限定)
締 切：平成 25 年 7 月 26 日(定員になり次第受付終了します。)
申込方法：申込用紙を下記ホームページよりダウンロードのうえ、FAX、E-mailにて申込みください。
ホームページ：http://www.naramed-u.ac.jp/~gyne/
F A X：0744-29-4746 E-mail：kenkyu@naramed-u.ac.jp

テーマ2 心臓と血管の形づくりと病気～医学研究と診療の両面から～(循環器システム医科学)

日 時：平成 25 年 8 月 3 日(土) 10:00～17:00
場 所：奈良県立医科大学基礎医学棟 5階会議室
対 象：高校生 20名

募集は終了しました。

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを開催しました

6月15日(土)に本学大学院看護学研究科のオープンキャンパスを開催しました。

大学院看護学研究科は平成24年に設置されましたが、本学受験希望者に本学の魅力をアピールすることを目的に、また受験希望者からの要望により、初めてオープンキャンパスを開催しました。

プログラムとしては、まず「医学部長の挨拶」、看護学科長から「概要と特色、入試説明」が行われ、続いて各コースの「カリキュラム説明」が行われました。その後は領域別に分かれ「個別相談会」を行い、参加者が志望する指導教員のもとで研究テーマや履修についての相談が行われました。「先輩との座談会」では、参加者からの多くの質問が寄せられ、先輩からアドバイスを聞くことができ、非常に好評でした。また「施設見学」では院生講義室や研究室以外に助産学実践コースで主な実習先となる附属病院のメディカルパスセンターの見学が行われました。

参加者からは、「大学院での研究や様子についてわかったので良

かった」「先輩から、今のような勉強をしているのか、勉強している中でどのような学びがあるのか教えていただき参考になった」などの声が寄せられました。

来年度も引き続き開催予定ですので、看護学研究に興味のある方、助産師をめざしている方などぜひご参加ください。また、8月22日に実施する選抜試験の学生募集要項やリーフレットなど大学院看護学研究科に関する資料は大学の教育支援課にて配付しておりますので、お問い合わせください。



【問い合わせ先】
教育支援課 看護学研究科担当
内線2390・2401

クラブ紹介



野球部

「野球を楽しもう！」

部員 ▶ プレイヤー 20 人 マネージャー 8 人

顧問 ▶ 古家 仁 (附属病院長)

キャプテン ▶ 松林 和磨 (医学科 4 年)

活動日 ▶ 火・木・土 (週 3 日)

奈良県立医科大学 Livewire 部は、医学科 64 名、看護学科 22 名の計 86 名で活動しています。部員の間で自由にバンドを組み、昼休みや放課後に部室で練習しています。基本的に練習はバンドごとですが、年に 2～3 回定期演奏会を開き、発表の場を設けています。毎回たくさんのバンドが出演し、さまざまなジャンルの音楽を演奏します。大学祭では模擬店の近くの野外ステージで演奏できるので、普段あまり観てもらう機会のないクラスの友達にも演奏を観てもらえます。GW には関西の医歯薬系の各大学から選抜されたバンドが出演する医薬連ライブもあり、奈良医大も毎年出演させてもらっています。レベルの高い音楽に触れることができ、他大学の知り合いもたくさんできます。

夏には希望者だけで合宿に行き、現地で練習して発表もします。合宿先では飲み会や BBQ など楽しいイベントが盛りだくさんです。いつもとは異なるメンバーでバンドを組めるので、今まであまり話したことのない部員とも話せたり、普段あまり演奏しないジャンルの曲ができたりと、新鮮な気持ちで取り組めると思います。

Livewire 部は他の部活との兼部ができ、新歓と追いコンでは大勢の部員や OB・OG さんが集まるので、いろんな部活の人と交流できます。楽器は初心者から始めた人も

奈良県立医科大学野球部は、奈良医大のグラウンドで、日々、練習や試合に取り組んでおります。

夏の新チーム結成以来、関西医歯薬リーグにおいて秋、春連覇を果たしました。現在は 8 月に行われます西日本医科学学生総合体育大会での優勝を目指して頑張っています。このように最近結果を残すことができている野球部ですが、実は大学から野球を始めたという選手が何人もいます。彼らは先輩の基礎からの指導等によって厳しい練習の中メキメキと力をつけています。経験者も皆意識が高く、大学でさらにレベルアップを図ることができるはずで。また厳しい中でもみな野球を楽しんでおり、すごく良い雰囲気全員がプレーしております。

その他、春に花見をしたり西医体後に海に行ったりしてプレイヤーとマネージャー、また先輩と後輩がとても仲の良いクラブだと思います。また毎年 OB の先生の計らいで京セラドームで野球をさせていただいています。いつもプロの選手がプレーをしているグラウンドで野球をするのは格別です。

ぜひ野球部の良い雰囲気を味わいにグラウンドに一度足を運んでみてください。



Livewire 部

「We are LIVEWIRE!!」

部員 ▶ 86 名

顧問 ▶ 桑原 理充 (形成外科センター准教授)

部長 ▶ 大森 章代 (医学科 4 年)

練習日 ▶ 不定期

多いです、練習すればすぐに上達するので、音楽が好きな人なら誰でも大歓迎です！興味のある方は是非一度ライブを見に来てください！

図書館だより

図書館利用の基礎知識

第2回 図書館資料の道しるべ：OPACのご紹介(単行本の探し方)

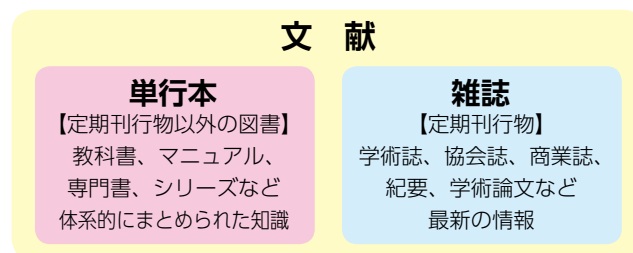
メインデスクでは、「図書館に〇〇(タイトル)という本があると聞いたのですが、どこにありますか?」といった質問をしばしば受けます。そこで「ああ、その本ならこちらにありますよ。」と案内できるのは、よく読まれる人気本の場合で、たいていはタイトルを聞いただけではどこにあるのかわかりません。そこでOPACの出番です。OPACが使えれば、どこにあるのか、現在貸出中かといったことがすぐにわかり、図書館の資料を効率よく利用できるようになります。というわけで、今回は図書館資料の道しるべとなるOPACについてご紹介します。

【OPACと文献】

OPACとはOnline Public Access Catalogの略で、オンライン蔵書目録のことです。「オーパック」と読みます。図書館ホームページの左上「所蔵資料検索」がOPACにあたります。

OPACで資料を検索するときまず大事なのが、自分の求めている文献の種類を知っておくことです。文献とは、「文字を主とする記録物一般(日本図書館協会『図書館用語集』より)」のことで、その中に単行本や雑誌が含まれます。(図1)

図1 文献の種類



【OPACでの検索方法】

では、実際にどのように検索するのか、文献の種類別にご紹介します。

●単行本(図2)

- ①「検索対象」を表示させ、「図書」にチェック
- ②「全ての項目」に書名を入力し、検索開始
<ポイント 「タイトル」や「著者名」などを指定すると、完全一致していなければヒットしない場合があるので、なるべく「全ての項目」を使う>

【検索結果の見方】

次に、これらの検索でヒットした検索結果の見方です。単行本の場合は図3のように表示されます。「書名」、「配架場所」、「請求記号」をメモして本を探しに行きましょう。OPACはただキーワードで検索するだけでなく、ちょっとした検索のコツがあります。このコツさえ掴めれば、図書館の資料がどこにあるかすぐわかり、探し回る手間が省けるので、ぜひOPACを使いこなしてください。

今回は雑誌の探し方をご紹介します。

図2 単行本検索

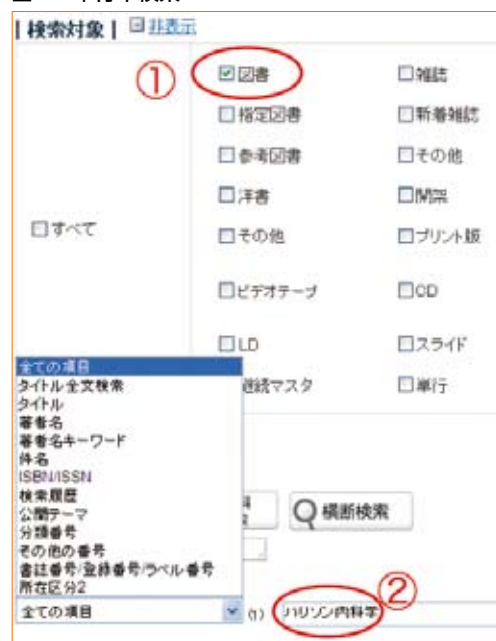
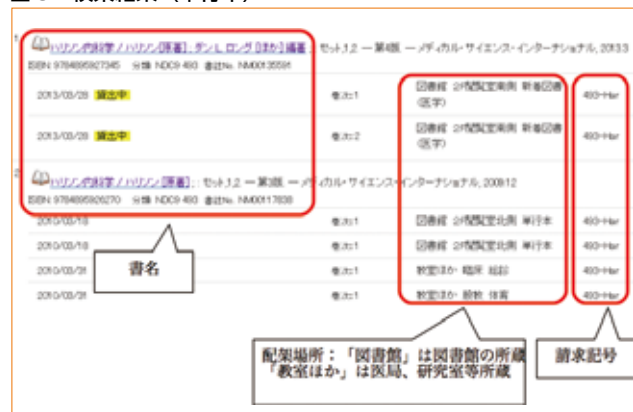


図3 検索結果(単行本)



平成 24 年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

平成 24 年度決算 収益 336 億 9,736 万円 (+4 億 9,572 万円)

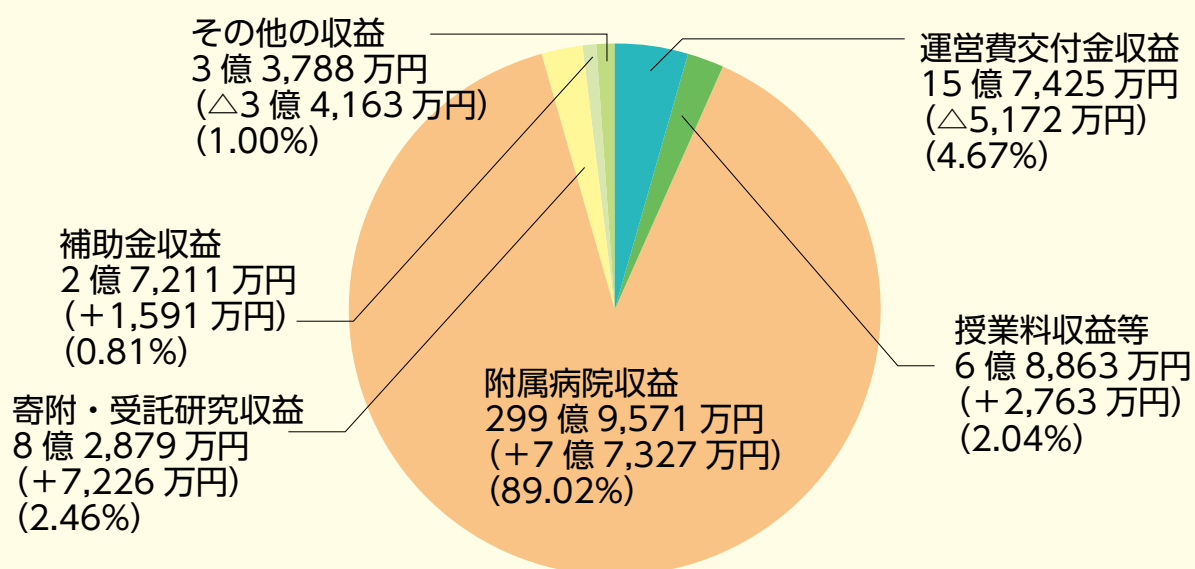
費用 335 億 7,750 万円 (+6 億 9,836 万円)

差引 1 億 1,987 万円の黒字 (H23 / 3 億 2,251 万円の黒字)

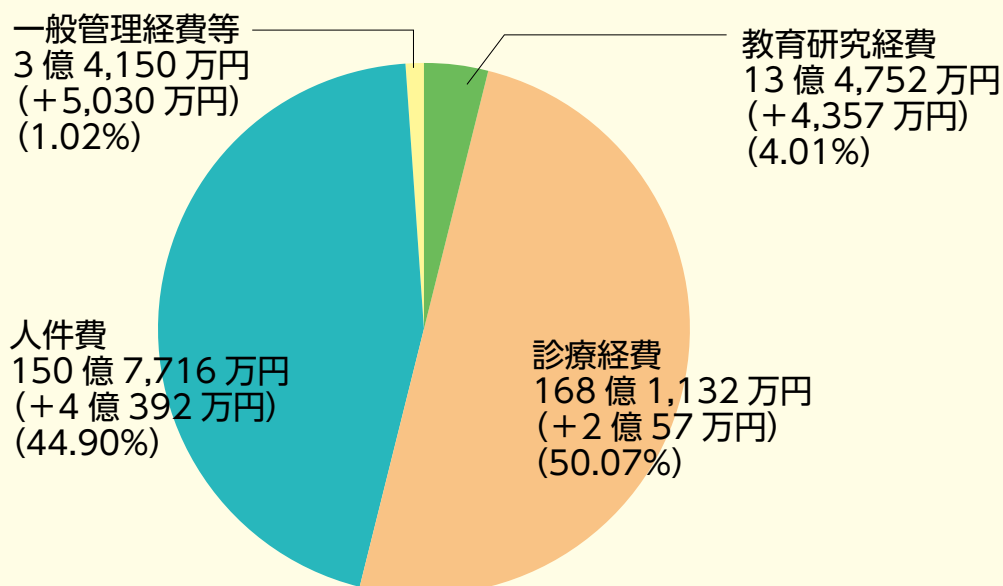
※平成 22 年度から 3 年連続の黒字決算

※ () 内は前年との増減額

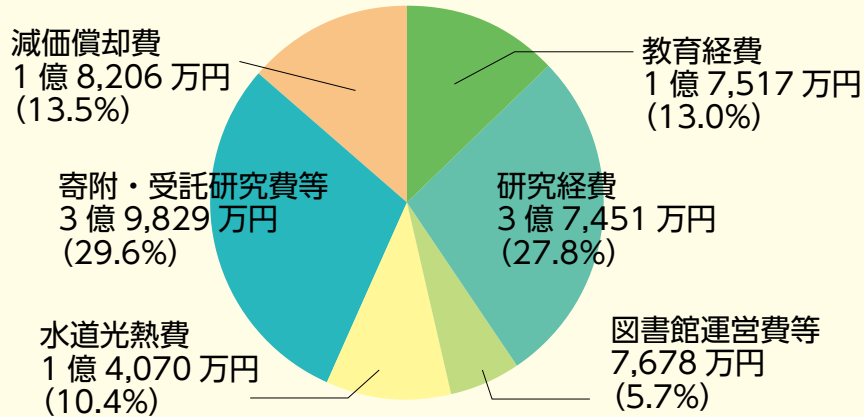
収 益



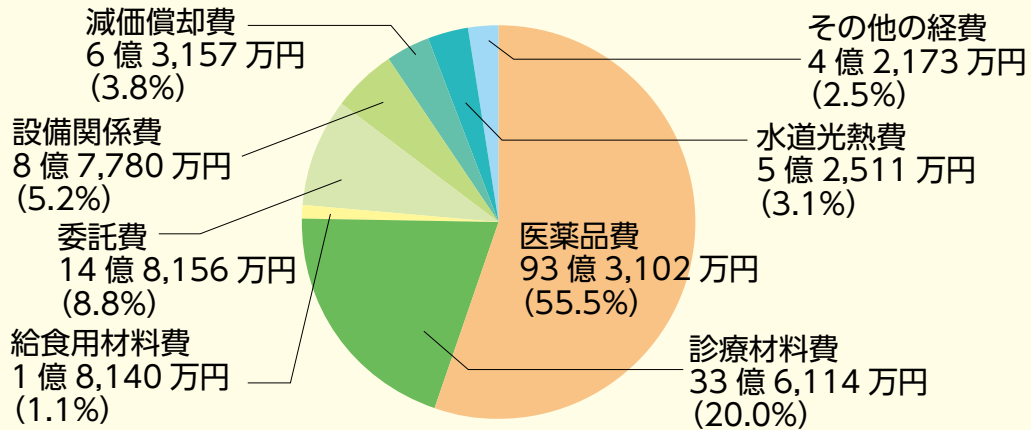
費 用



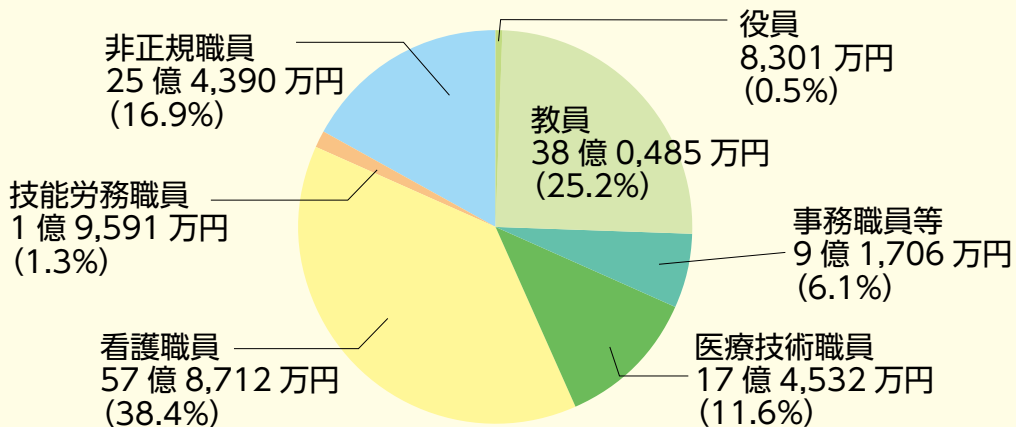
教育研究費の内訳



診療経費の内訳



人件費の内訳



平成24年度は附属病院収益の増収などにより3年連続黒字決算で、第1期中期計画期間6年間の累積赤字は8億4,082万円となりました。

第2期中期計画ではこの累積赤字の解消が目標となる一方で、教育・研究の拡充・発展に加えて附属病院新棟建設や医療機器整備等により費用負担の増加が見込まれますので、皆さんには経費節減など目標達成に向けた取り組みへ引き続きご協力をよろしくお願いします。

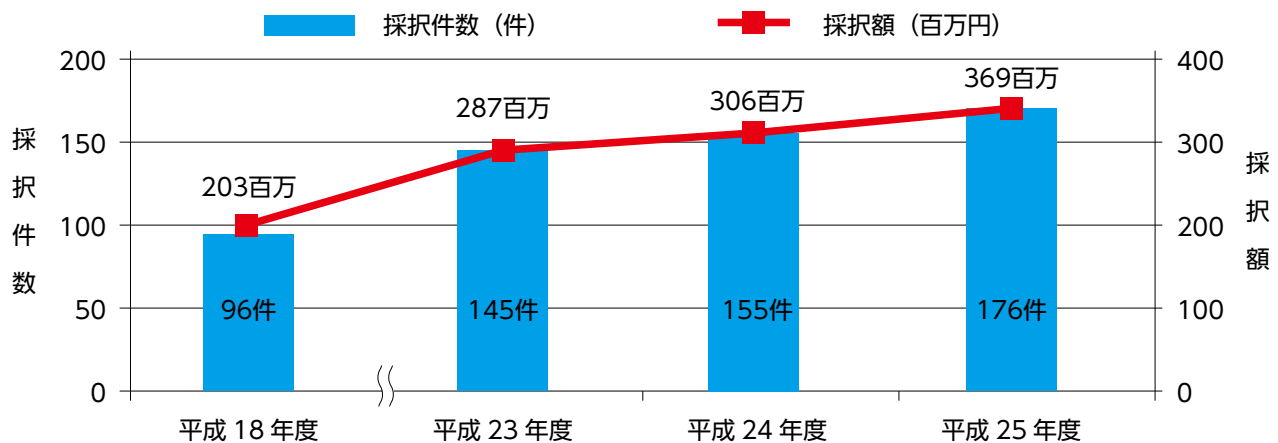
平成 25 年度 科学研究費補助金決定

平成 25 年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金（文部科学省、独立行政法人日本学術振興会））が決定しました（若手研究〈スタートアップ〉等を除く。）。

平成 25 年 5 月 1 日現在の状況は表のとおりです。来年度においても、より積極的な申請をよろしくお願ひします。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	経費	
			直接経費	間接経費
平成25年度	176 (+83.3%)	369,020 (+81.6%)	284,000	85,020
平成24年度	155 (+61.5%)	306,150 (+50.6%)		
平成23年度	145 (+51.0%)	286,820 (+41.1%)		
平成18年度	96	203,220		

() は平成18年度比



平成25年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

事業名	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究 (研究領域提案型)	循環器システム医科学	助教	坂部 正英	心臓中隔や弁の前駆組織をつくりだす部位特異的な細胞運動とそれを誘導するメカニズム	25~26
基盤研究(A)	地域健康医学	教授	車谷 典男	地域在住高齢者のQOLと生活機能の低下要因に関する大規模コホート研究	24~26
基盤研究(B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	迅速な遺伝子破壊法を用いたマウス・ノンコーディングRNAの機能解析	22~25
基盤研究(B)	健康政策医学	教授	今村 知明	健康被害事件での社会反応の定量化と過剰反応抑制の為にリスクコミュニケーション研究	23~25
基盤研究(B)	第一解剖学	教授	西 真弓	幼少期の養育環境が脳の可塑性に影響を及ぼす分子基盤の解明	23~25
基盤研究(B)	循環器システム医科学	教授	中川 修	転写調節因子による心血管系の発生・機能制御機構	23~25
基盤研究(B)	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	神経系腫瘍幹細胞の放射線抵抗性と分化に対する重粒子線照射の影響	23~25
基盤研究(B)	分子病理学	特任教授	高木 都	光る腸管神経の再生・新生機構の解明と制御	23~26
基盤研究(B)	産婦人科学	教授	小林 浩	鉄の酸化ストレスによる子宮内膜症のがん化機序の解明とモデル動物の樹立	23~25
基盤研究(B)	消化器・総合外科学	非常勤講師	大橋 一夫	組織工学を基盤とした自己細胞による血友病治療の創出	24~26
基盤研究(B)	化学	教授	酒井 宏光	人工赤血球の酸素運搬機能時間を体内電子供与系の活用により飛躍的に延長させる	25~27
基盤研究(B)	皮膚科学	特任教授	大嶋 茂芳	合成繊維集合体の高強度化への革新的アプローチ	25~27
基盤研究(B)	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	嗅球における匂い経験依存的な神経回路再編の分子機構	25~27
基盤研究(B)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	肺高血圧一右心不全発症における新規TMEM100遺伝子の病態生理的意義の解明	25~27
基盤研究(B)	小児科学	教授	嶋 緑倫	自己細胞移植による次世代型血友病A治療の創出	25~27
基盤研究(B)	消化器・総合外科学	講師	山田 高嗣	臓器再生・移植医療を目指したiPS腸管を用いた機能的臓器の臓器分化誘導法の開発	25~27
基盤研究(B)	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	iPS腸管作製技術を応用した難治性腸疾患に対する新たな腸管再生・移植医療への挑戦	25~27
基盤研究(C)	整形外科	教授	田中 康仁	再生医療技術を用いた同種骨移植の再活性化に関する研究	22~25
基盤研究(C)	集中治療部	准教授	井上 聡己	全脳虚血に対するβブロッカーの脳保護に関する研究	22~25
基盤研究(C)	麻酔科学	教授	川口 昌彦	脊髄虚血後のミクログリア活性化制御による神経保護効果に関する検討	22~25
基盤研究(C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	視床下核におけるグリア細胞の機能解析ーパーキンソン病新規治療法の開発を目指してー	23~25
基盤研究(C)	保健体育	准教授	石指 宏通	高齢者における血栓形成関連因子の日内・季節変動の解明	23~25
基盤研究(C)	健康政策医学	准教授	赤羽 学	黄砂による日常症状に見られる健康被害に関する広域調査研究	23~25
基盤研究(C)	R実験施設	研究教授	森 俊雄	エストロゲン補充療法誘発4-OHEN-DNA付加体の難修復性とホットスポット解析	23~25
基盤研究(C)	数学	教授	藤本 圭男	非同型な自己正則写像を持つコンパクト複素多様体の研究	23~25
基盤研究(C)	第二解剖学	教授	和中 明生	神経再生を阻害する糖鎖修飾メカニズムの解析と人為制御	23~25
基盤研究(C)	薬理学	教授	吉橋 正典	糖尿病性微小血管障害でDc- SrcとMAPキナーゼの役割解明と分子創薬	23~25
基盤研究(C)	分子病理学	研究員	大森 斉	大腸癌肝転移を促進する骨髄間葉系幹細胞を標的とする治療	23~25
基盤研究(C)	病理病態学	講師	島田 啓司	膀胱尿路上皮癌におけるDNA修復酵素hABHファミリーの分子病理学的解析	23~25
基盤研究(C)	細菌学	教授	喜多 英二	受容体 (Gb3) 非発現細胞に対し志賀毒素はLDL受容体依存性に毒性を発現する	23~25
基盤研究(C)	健康政策医学	講師	小川 俊夫	自動体外式除細動器 (AED) の経済分析に関する研究	23~25
基盤研究(C)	第三内科学	准教授	吉治 仁志	慢性肝疾患進展抑制法の確立:効果予測に基づく個別化医療	23~25
基盤研究(C)	第三内科学	教授	福井 博	エンドトキシン・自然免疫系を介する腸肝相の解明	23~25

基盤研究(C)	第二内科学	講師	友田 恒一	肺動脈閉塞の機序解明への新たなアプローチ:加齢による肺の力学機能低下を調べる	23~25
基盤研究(C)	第二内科学	教授	木村 弘	呼吸不全、肥満低換気症候群における急性増悪は低酸素化学感受性の低下が関与する	23~26
基盤研究(C)	輸血部	教授	藤村 吉博	妊娠中に特異な先天性・血栓性微小血管障害症の分子病態とその制御機構解析	23~25
基盤研究(C)	NICU	教授	高橋 幸博	トロンボモジュリンによる重症新生児仮死治療の基礎的研究	23~25
基盤研究(C)	皮膚科学	准教授	小林 信彦	薬剤によるcAMP濃度上昇、CREB活性化と皮膚および神経系細胞のDNA修復亢進	23~25
基盤研究(C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	GVHDを病態モデルとして利用したDHSにおけるHHV-6再活性化機序の解明	23~25
基盤研究(C)	中央放射線部	准教授	田岡 俊昭	拡散テンソル線維路解析とサポートベクトルマシンによるアルツハイマー病の早期診断	23~25
基盤研究(C)	第二生理学	教務職員	三澤 裕美	ES腸管を利用した選択的神経分化法の確立	23~25
基盤研究(C)	胸部・心臓血管外科学	講師	吉川 義朗	カルパイン阻害剤による心保存後の虚血再灌流障害予防効果に関する研究	23~25
基盤研究(C)	胸部・心臓血管外科学	助教	内藤 洋	独創的な組織工学技術を用いた人工気管作成の試み	23~25
基盤研究(C)	整形外科	准教授	面川 庄平	再生医療技術を応用した四肢の拘縮性偽関節の治療に関する研究	23~25
基盤研究(C)	中央手術部	助教	阿部 龍一	開頭手術における運動誘発電位モニタリングに関する検討	23~26
基盤研究(C)	産婦人科学	講師	古川 直人	発現タンパクの機能制御に基づいた婦人がんの分子標的治療戦略	23~25
基盤研究(C)	産婦人科学	准教授	大井 豪一	羊水塞栓症の致死的原因における胎便の役割を解明する	23~25
基盤研究(C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	太田 一郎	頭頸部癌の浸潤・転移におけるEMTによる癌幹細胞活性化機構の解明	23~25
基盤研究(C)	口腔外科学	研究員	村上 和宏	早期荷重インプラントにおけるオッセオインテグレーション獲得のための微小動揺の閾値	23~25
基盤研究(C)	分子病理学	講師	笹平 智則	新規MIA gene familyによる口腔癌の血管新生・リンパ管新生機構の解明	23~25
基盤研究(C)	看護学科 母性看護学	准教授	中西 伸子	更年期女性の健康増進に向けた行動変容を促す健康貯金ノートを用いた介入プログラム	23~25
基盤研究(C)	脳神経システム医科学	助教	高橋 弘雄	嗅球の神経回路新生を支える血管-神経相互作用の解析	24~26
基盤研究(C)	看護学科 臨床病態医学	教授	濱田 薫	妊娠中の大気汚染曝露が次世代アレルギー疾患発症におよぼす環境影響評価と制御機構	24~26
基盤研究(C)	看護学科 哲学	講師	池辺 寧	ハイデガーにおけるエートス論の展開と医学哲学への応用についての研究	24~26
基盤研究(C)	分子病理学	研究員	藤井 澄	ヒストンリジン残基修飾による新たなエピジェネティクスの研究	24~27
基盤研究(C)	第二内科学	准教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肺疾患に対する新規栄養療法の開発:進行抑制から発症予防までをめざして	24~27
基盤研究(C)	第二内科学	助教	山本 佳史	慢性閉塞性肺疾患・表現型規定因子の探求-日本比較研究からの発信	24~26
基盤研究(C)	小児科学	准教授	野上 恵嗣	第二因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬への応用に関する基礎的研究	24~26
基盤研究(C)	血栓制御医学	講師	松井 英人	凝固第Ⅳ因子抗体に対する自己血管内皮前駆細胞移植による新規免疫寛容導入療法の確立	24~26
基盤研究(C)	小児科学	助教	荻原 建一	第Ⅴ因子の抗凝固機能と小児血栓性疾患との関連についての基礎的研究	24~26
基盤研究(C)	病原体・感染防御医学	講師	王寺 幸輝	In vitro発毛システムを用いた発毛現象の解明とWntシグナルの役割について	24~26
基盤研究(C)	皮膚科学	助教	宮川 史	GVHDモデルマウスにおける細胞障害性T細胞を制御する転写因子の同定	24~26
基盤研究(C)	精神医学	教授	岸本 年史	統合失調症における補体制御因子機能とシナプスプルーニング機構解析	24~26
基盤研究(C)	精神医学	研究員	森川 将行	主観的認知障害発症へのメタボリック症候群の影響に関する研究-高齢者コホート研究	24~26
基盤研究(C)	精神医学	准教授	安野 史彦	脳梗塞後うつ病に対する客観的指標の確立	24~26
基盤研究(C)	放射線医学	助教	田中 利洋	進行癌に対するIVR技術を駆使した新規治療法の開発	24~26
基盤研究(C)	細菌学	助教	王寺 典子 (下嶋典子)	HLA-Fによる免疫抑制法-制御性T細胞を100%残すアロ反応性細胞除去法の開発	24~26
基盤研究(C)	消化器・総合外科学	准教授	庄 雅之	消化器癌における腫瘍特異的メモリー細胞能動的誘導法の開発	24~26
基盤研究(C)	腫瘍センター	研究員	中村 信治	エリスロポエチンの炎症性腸疾患に対する新規治療の可能性	24~26
基盤研究(C)	第二解剖学	助教	奥田 洋明	新規細胞外マトリックスDACsのアストロサイトおよび神経細胞における機能解析	24~26
基盤研究(C)	整形外科	研究員	藤間 保晶	骨腫瘍に対する患肢温存を目的とした細胞活性を有した液体窒素処理骨移植法の開発	24~27
基盤研究(C)	整形外科	学内講師	城戸 顕	担がん患者の骨微小環境の解析と間葉系幹細胞の病態への動的関与	24~26
基盤研究(C)	スポーツ医学講座	教授	熊井 司	腱・靭帯付着部症に対する神経要素の動態とヒアルロン酸の治療効果に関する研究	24~26
基盤研究(C)	泌尿器科学	准教授	平山 暁秀	地域高齢者の夜間頻尿が睡眠に及ぼす影響に関する研究	24~26
基盤研究(C)	泌尿器科学	研究員	石橋 道男	多発性嚢胞腎の細胞マトリックス接着応答とエピジェネティクス修飾による治療法の研究	24~26
基盤研究(C)	産婦人科学	助教	重富 洋志	卵巣明細胞癌におけるDNAチェックポイント機構制御の解明と新規治療戦略の構築	24~26
基盤研究(C)	MFICU	助教	金山 清二	卵巣明細胞癌の抗癌剤耐性克服による新規治療法の開発	24~26
基盤研究(C)	眼科学	教授	緒方 奈保子	高齢者の視機能と眼疾患における全身因子および色素上皮由来因子の関与	24~26
基盤研究(C)	眼科学	准教授	松浦 豊明	ハイドロゲルレンズフィル後の屈折、調節の評価	24~26
基盤研究(C)	消化器・総合外科学	准教授	金廣 裕道	組織工学と多能性幹細胞の腸管分化誘導技術を融合した新しい腸管移植法の開発	24~26
基盤研究(C)	総合医療学	准教授	西尾 健治	敗血症に対するADAMTS13の効果	24~26
基盤研究(C)	口腔外科学	研究員	杉浦 勉	即時・早期荷重インプラントの周囲骨の治癒にオーバーロードが及ぼす影響	24~26
基盤研究(C)	口腔外科学	准教授	山本 一彦	マイクロRNAの制御を介した新たな口腔癌治療法の開発	24~26
基盤研究(C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	上顎の形成過程におけるWntシグナリングの役割	24~26
基盤研究(C)	成人看護学	講師	石橋 千夏	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育プログラムの検討	24~28
基盤研究(C)	看護学科 小児看護学	教授	川上 あずさ	自閉性障害児のきょうだいのもち「まもり」に着眼した支援方法の構築	24~26
基盤研究(C)	看護学科 公衆衛生看護学	講師	奥田 真紀子	養育支援訪問事業における支援選択の指標開発-ニーズとアウトカムに着目して-	24~26
基盤研究(C)	脳神経システム医科学	助教	吉原 誠一	新生嗅球発在ニューロンの神経回路再編機構の解明	25~27
基盤研究(C)	循環器システム医科学	助教	坂部 正英	心臓形態形成を制御する新規シグナル伝達ネットワークの解明とその意義	25~27
基盤研究(C)	第一生理学	教授	山下 勝幸	神経発生期に存在する細胞外電位勾配:軸索ガイダンスにおける役割とイオン機序の解明	25~27
基盤研究(C)	病原体・感染防御医学	准教授	中村 ふくみ	トキソプラズマの実態解明~多彩な臨床像とその病態に関連する諸因子の基礎的検討~	25~27
基盤研究(C)	中央手術部	助教	田中 優	局所麻酔薬のクオリティ・インディケータとしての麻酔満足度尺度の開発	25~27
基盤研究(C)	放射線腫瘍医学	講師	玉本 哲郎	がん放射線治療の均質化のためのモバイル遠隔教育システムの構築	25~27
基盤研究(C)	法医学	教授	羽竹 勝彦	慢性アルコール投与ラットにおける血管反応性-アルコール誘発性突然死の観点から-	25~27
基盤研究(C)	第一内科学	准教授	上村 史朗	光学ナノパーティクルによる単球標識とOCTを利用した不安定プラーク診断法の開発	25~27
基盤研究(C)	第一内科学	助教	竹田 征治	可溶性Flt-1のCKD関連心不全における役割と肺水腫発症抑制効果の検討	25~27
基盤研究(C)	血圧制御学	講師	染川 智	動脈分化および成体血管新生におけるTMEM100分子の機能的意義の解明	25~27
基盤研究(C)	循環器システム医科学	助教	林 寿来	血管内皮細胞における細胞間シグナル伝達因子の発現制御機構	25~27
基盤研究(C)	病理病態学	学内講師	中谷 公彦	糸球体腎炎に対する可溶性α-Klotho蛋白の新規治療薬としての有用性の検討	25~27
基盤研究(C)	神経内科学	講師	杉江 和馬	自己貪食細胞性ミオパシーにおけるオートファジー分子機構の病態関与の解明	25~27
基盤研究(C)	産学官連携推進センター	特任助手	刀根 庸浩	アイレベルで測定した夜間照度・短波長暴露がメラトニン分泌および疾病に及ぼす影響	25~27
基盤研究(C)	輸血部	准教授	松本 雅則	造血幹細胞移植後の致死的原因である血栓性微小血管障害症の新規診断法と治療法の開発	25~27

基盤研究(C)	小児科学	研究員	松本 智子	後天性凝固異常症における凝固機能評価と抑制メカニズムの解明	25~27
基盤研究(C)	精神医学	学内講師	芳野 浩樹	社会経験依存的に発達する前頭前野の興奮性神経回路は治療の手がかりとなるか	25~27
基盤研究(C)	法医学	非常勤講師	石谷 昭子	HLA-Gの発現とその遺伝子型の移植片生着への影響について一急増する報告の検証一	25~27
基盤研究(C)	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	コラーゲン網内での三次元培養によるES細胞から心筋細胞への効率的な分化誘導	25~27
基盤研究(C)	脳神経外科学	学内講師	中川 一郎	Ischemic Postconditioning に関する電気生理学的検討	25~27
基盤研究(C)	整形外科学	講師	村田 景一	再生医療技術に応用した血管付き人工骨による四肢偽関節の治療に関する研究	25~27
基盤研究(C)	麻酔科学	助教	林 浩伸	心臓血管手術中におけるレーザーパペックル法による眼血流測定と術後視機能障害の検討	25~28
基盤研究(C)	第二生理学	助教	松吉 ひろ子	排尿機能に対する末梢グリア(神経膠)細胞の作用	25~27
基盤研究(C)	MFICU	助教	春田 祥治	内服可能な大豆タンパクペプチドによる卵巣がん分子標的抗腫瘍薬の開発	25~27
基盤研究(C)	産婦人科学	助教	吉田 昭三	卵巣明細胞癌の細胞周期チェックポイント機構修飾による新規治療法の解明	25~27
基盤研究(C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	山中 敏彰	平衡リハビリテーションにおける感覚代行技術の実用化に向けた基礎研究	25~27
基盤研究(C)	看護学科 成人看護学	教授	石澤 美保子	クリティカルケア領域における皮膚障害の予防および発生後ケアのためのプログラム開発	25~27
基盤研究(C)	看護学科 公衆衛生看護学	准教授	入江 安子	妊婦の心理・社会環境要因と産後うつ、子どもの発達の困難さとの関連 コホート研究	25~29
基盤研究(C)	放射線腫瘍医学	研究員	大西 武雄	宇宙放射線組成線種・重粒子線によるDNA損傷とその修復機構	25~27
基盤研究(C)	第二内科学	助教	山内 基雄	OSASの多様性に対応した個別化治療の構築—薬物療法の可能性の探索—	25~27
挑戦的萌芽研究	細菌学	講師	水野 文子	サルモネラ胃腸炎後脳症発症マウスモデルの作製	23~25
挑戦的萌芽研究	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	嗅覚における新規な油センサーの分子機構	24~25
挑戦的萌芽研究	第二生理学	教授	堀江 恭二	マウスES細胞の維持に必須な遺伝子群の網羅的探索	24~25
挑戦的萌芽研究	化学	教授	酒井 宏水	異常赤血球の微小細管内流動形式とガス反応の計測法	24~25
挑戦的萌芽研究	分子病理学	特任教授	高木 都	生きたままの腸管神経を覗く	24~25
挑戦的萌芽研究	第一生理学	講師	和田 佳郎	「耳石器の特性」を応用した平衡障害リハビリテーション装置の開発	24~26
挑戦的萌芽研究	組換えDNA実験施設	准教授	杉浦 重樹	損傷認識を人為的に促進し紫外線DNA損傷修復を飛躍的に高める手法の開発	24~25
挑戦的萌芽研究	皮膚科学	特任教授	大崎 茂芳	繊維集合体における隙間のないユニークなパッキング構造化の研究	24~26
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	助教	常見 泰平	子宮頸管粘液を用いた新規妊婦高血圧症候群予知マーカーの開発	24~26
挑戦的萌芽研究	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	口腔がんにおける遺伝子修復機構を標的とした抗がん剤増感の研究	24~25
挑戦的萌芽研究	英語	准教授	吉田 泰彦	Charles Lambのロマン主義作家としての位置付けを見直す	25~27
挑戦的萌芽研究	物理学	准教授	藤本 雅文	八頂点型における弱い普遍性と双有理幾何学	25~26
挑戦的萌芽研究	第二生理学	教授	堀江 恭二	レトロエレメントの制御因子の解析を基盤としたES細胞の未分化維持機構の解明	25
挑戦的萌芽研究	分子病理学	教授	國安 弘基	癌幹細胞のゆらぎを生体内で観察する	25~26
挑戦的萌芽研究	化学	准教授	山本 恵三	立体構造情報に基づいたCTX-M型β-ラクタマーゼの基質特異性拡張機構の解明	25~27
挑戦的萌芽研究	地域健康医学	助教	富岡 公子	化学物質取扱い労働者の複合曝露による発癌リスクに関する歴史的コホート研究	25~27
挑戦的萌芽研究	第一内科学	教授	斎藤 能彦	性差を呈する家族性拡張型心筋症とモデルマウスを対象にした性差誘因機構の解明	25
挑戦的萌芽研究	循環器システム医科学	教授	中川 修	新しい手法による新規内皮特異的遺伝子の心血管発生における意義の解析	25~26
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	教授	小林 浩	羊水特異物質を用いた羊水染色体診断法の開発	25~26
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	助教	赤坂 珠理晃	難治性卵巣明細胞癌に対するDNA修復異常に着目した薬剤耐性の克服	25~26
挑戦的萌芽研究	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	In vitro内耳発生システムの開発とWntシグナルによる内耳発生機構の解明	25~26
若手研究(B)	地域健康医学	講師	岡本 希	認知機能の非遺伝的危険因子の検討と健康関連QOLへの影響に関する疫学的研究	22~25
若手研究(B)	化学	助教	松平 崇	クモの糸の紫外線による特異的劣化機構の解明研究	23~25
若手研究(B)	地域健康医学	助教	富岡 公子	芳香族アミン曝露作業者の発癌リスクに関する歴史的コホート研究	23~25
若手研究(B)	第一内科学	助教	岡山 悟志	心臓MRIによるミトコンドリア心筋症の病態解明	23~25
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	山下 哲範	骨導超音波補聴器の実用化に向けた語音聴力の検討	23~25
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	西村 忠己	軟骨伝導を用いた新しい補聴器の開発	23~25
若手研究(B)	地域健康医学	特任講師	大林 賢史	メラトニン関連サーカディアン血圧変動に対する光曝露およびADMAの影響	24~26
若手研究(B)	RI実験施設	研究員	岩本 顕聡	色素性乾皮症A群患者の神経障害に及ぼす酸化的DNA損傷サイクロプリンの役割	24~26
若手研究(B)	小児科学	助教	榊原 崇文	小児難治性てんかんにおける脳形成異常発症病態解明のための生物化学的研究	24~26
若手研究(B)	精神医学	助教	深見 伸一	時間的・空間的遺伝子発現システムと環境要因操作による統合失調症モデルマウスの開発	24~25
若手研究(B)	放射線医学	助教	西尾福 英之	MRIの分子画像を用いた肝腫瘍に対する分子標的治療薬の早期治療効果診断	24~25
若手研究(B)	消化器・総合外科学	研究員	右田 和寛	新たなT細胞不活化経路を標的とした癌治療法の臨床導入を目的とした研究	24~25
若手研究(B)	消化器・総合外科学	助教	赤堀 宇広	膵癌におけるHMGB-1の役割解明と新規標的治療の開発	24~25
若手研究(B)	消化器・総合外科学	研究員	北東 大督	肝細胞癌のT細胞不活化経路を標的とした癌治療法の臨床導入を目的とした研究	24~25
若手研究(B)	脳神経外科学	助教	竹島 靖浩	内在性神経幹細胞を利用した脳静脈虚血治療の研究	24~25
若手研究(B)	麻酔科学	講師	瓦口 至孝	オピオイドが癌細胞の抗がん剤感受性を低下させるか?	24~25
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	下倉 良太	新しい音伝導ルート(軟骨伝導)を用いた両耳装用補聴器の開発	24~26
若手研究(B)	口腔外科学	研究員	梶原 淳久	DNA修復経路を標的とした口腔腫瘍熱細胞死の基礎的研究	24~25
若手研究(B)	口腔外科学	研究員	柳生 貴裕	乳歯歯髓由来細胞による唇顎口蓋患者の顎顎治療	24~27
若手研究(B)	整形外科学	研究員	重松 英樹	脊髄損傷患者におけるロボットスーツを用いた超急性期からのリハビリテーション介入	25~26
若手研究(B)	生化学	助教	山内 晶世	膵β細胞の再生増殖におけるヒトREGファミリー遺伝子の役割の解明	25~26
若手研究(B)	地域健康医学	学内講師	佐伯 圭吾	皮膚温DPGのサーカディアンリズムと血圧・糖脂質代謝・睡眠に関する大規模疫学研究	25~27
若手研究(B)	輸血部	研究員	吉田 瑠子	補体調節因子系の解析システムの構築とこれを用いた非典型溶血性尿毒症症候群の診断	25~26
若手研究(B)	地域医療学	特任助教	矢田 弘史	インヒビター保有血友病A患者の新たな止血治療戦略における凝血学的基礎研究	25~26
若手研究(B)	精神医学	助教	松田 康裕	統合失調症患者に対する認知機能リハビリテーション用ソフトの効果検討	25~26
若手研究(B)	精神医学	助教	太田 豊作	近赤外線スペクトロスコピーを用いた統合失調症発症予測因子の検討	25~27
若手研究(B)	消化器・総合外科学	研究員	植田 剛	多能性幹細胞からの誘導腸管への血管新生能の評価:拒絶のない腸管移植の開発にむけて	25~26
若手研究(B)	脳神経外科学	助教	田村 健太郎	焦点切除術における高周波振動を含むセポラン賦活術中皮質脳波の有用性	25~26
若手研究(B)	泌尿器科学	助教	穴井 智	光力学診断を応用した去勢抵抗性前立腺癌の予後予測	25~26
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	研究員	岡安 唯	モルモットを用いた骨導超音波聴覚の知覚メカニズムと音響負荷の影響についての研究	25~27
若手研究(B)	法医学	助教	粕田 承吾	iPS細胞を用いた敗血症の病態解明および新規治療法の創出	25~26
若手研究(B)	口腔外科学	助教	堀田 聡	即時荷重インプラントにおいて骨結合を阻害する微小動揺の閾値の解明	25~27
若手研究(B)	口腔外科学	助教	山川 延宏	口腔がんにおける酸素中性子捕捉療法後の細胞死メカニズムの解明	25~27
若手研究(B)	口腔外科学	助教	青木 久美子	抗癌剤による味神経障害に起因する味覚障害の発生機序の解明と治療法の開発	25~26
若手研究(B)	口腔外科学	研究員	玉置 盛浩	口腔がんに対するγδT細胞とMICA遺伝子に関連した免疫細胞療法法の検討	25~26
若手研究(B)	第一解剖学	助教	堀井 謹子	新規視床下部デルタ神経核の生理機能解析	25~26
若手研究(B)	総合医療学	助教	吉本 清巳	変形性膝関節症用硬性装具、CBプレースの効果に関する研究	25~26
奨励研究	皮膚科学	研究員	御守 里絵	ブドウ球菌が表皮自然免疫応答に及ぼす影響に着目したアトピー性皮膚炎の病態解明	25

医療倫理講習会の開催のご案内

来る8月23日(金)に医療倫理講習会を開催します。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針」に規定されている“研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。”の一環として行うものです。

なお、医の倫理委員会への審査申請においても、受講歴が必要となりますので、ご参加ください。

日 時：平成 25 年 8 月 23 日 (金)
16:30 ~ (予定)
開催場所：基礎医学棟 1 階講義室
講 師：早稲田大学
教授 土田 友章 先生

産学官連携だより

学内の業務能力向上研修を利用させていただき、2012年9月14日、15日に芝浦工業大学で開催されたUNITT(※) Annual Conferenceに参加しました。大学技術移転における諸課題について講師と会場が一体となって討議するセミナーであり、多様なテーマが取り上げられ、計16セッションに全国の産学連携関係者が集まりました。以下、参加したセッションの一部を報告します。

全体セッションの「これからの日本のために産学連携はどうあるべきか？原点に帰り考える」(モデレータ：久保浩三氏 奈良先端科学技術大学院大学 産学官連携本副部長、スピーカー：太田賢司氏 シャープ株式会社フェロー)では、学内の全教員が産学連携を行ったらどうなるのか等が話し合われ、米国と比較して日本の産学連携のモチベーションが高まらない原因を探るかたちになりました。久保先生のお話によると、米国には9か月分の給与しか出さず、残りは自分で稼げなさいという大学があるほど産学連携が給与や評価に影響があるため、研究者も研究の面白みや自身の願望だけではなく、市場まで考えた内容を企業に提案するそうです。さすが米国ですが、では日本でも教員に自分で自分の給料を何とかしなさいと言ってみたらどうなるでしょう？案外、共同研究等でちゃんと稼いでくるかもしれませんが、そこまで踏み切ったことをする大学はまだありません。なぜなら、本業(基礎研究)から遠ざかるリスクがあるから。実際やってみたら基礎研究もこなしつつ上手いくかもしれませんが、そのリスクを冒してまでやるモチベーションが今の日本の大学にはないのが実情だそうです。「どこかの大学でやってみて欲しい」と投げかけられてセッションは終了しました。

セッション「大学における安全保障輸出管理体制と名古屋議定書」(モデレータ：鈴木陸昭氏 国立遺伝学研究所 知的財産室長、スピーカー：松原幸夫氏 新潟大学 産学地域連携推進機構教授、野尻知江氏 京都大学 研究国際部 研究推進課)に参加しました。本学の先生も海外で学会発表したり、留学生を受け入れたり、研究サンプルを海

外の大学や企業に提供することがありますが、それらの貨物・技術が武器や軍事転用可能である場合、わが国及び国際社会の安全性を脅かす国家やテロリスト等、懸念活動を行うおそれのある者に渡ることを防がねばなりません。

例えば、鳥インフルエンザの研究では、テロ悪用を懸念する米政府の指摘で東京大学の論文の公表が見合わせられました。また、日本の高度医療技術を学んでもらうために海外から医療従事者を受け入れることは国際貢献のために必要なことですが、最先端の技術に関与させないように注意が必要です。共同研究や海外大学との学術交流協定などグローバルな活動をするうえでの注意点、安全保障輸出管理を大学においてどう行っていくべきかの議論が行われました。本学の場合、海外との共同研究契約は年間1、2件であり、他学の実例を聞くことができるこのような機会は大変参考になりました。実例の多い大学でも、教育機関としての立場や国際社会への貢献という視点等から案件によっては迷うこともあり、経済産業省と相談しながら進める場合もあるようです。本学も、安全保障の問題に出会ったときには誠実に対応する必要があると思われます。

他、3つのセッション(「地域からグローバルへ」、「大学の特許をもとに共同研究がスタートする際に、ライセンスと共同研究をどのようにマネージメントすべきか?」、「案外できるぞ医療機器の産学連携」)に参加しました。UNITTという大きなイベントの雰囲気を感じ、他大学の産学連携担当者と交流をもてた事は大いに刺激になりました。このような機会を与えていただけたことに感謝するとともに、今回の参加で得た知識を今後の業務に役立てることが出来るよう、更に自己研鑽していきたいと思えます。

※ UNITT：大学等及びTLO(技術移転機関)並びにそれらの活動を支援する機関や個人で構成された一般社団法人大学技術移転協議会のこと。大学等における知的財産管理及び技術移転を含む産学連携の業務を効率的に推進するための交流、啓発、調査、研究、提言等を行うことにより、産学連携の健全な発展を促進することを目的に活動している。

総合研究棟開設20周年記念事業講演会を開催しました

5月13日(月)、厳樞会館三階大ホールにおいて、総合研究棟開設20周年を記念し、講演会を開催しました。

吉岡章学長から総合研究棟は本学研究の大きな柱であり、今後ますます重要性を増して行くであろうとの祝辞をいただきました。

また小西登先端医学研究機構長・研究部長から、総合研究棟の沿革について紹介があり、座長の喜多英二副学長・医学部長の進行により講演会が始まりました。

講師には免疫学の世界的権威で、大阪大学免疫学フロンティア研究センターの拠点長であり、大阪大学の教授である審良静男(あきらしずお)先生(写真)をお迎えし、「自然免疫と炎症応答」と題して、審良先生の最新の研究成果、やNLRP3インフ

ラマゾームの活性機構、さらにはM2マクロファージの役割について報告していただきました。

会場には130名もの参加者が詰めかけ聴講し、また講演後の質疑応答も熱心に行われ、講演会は大盛況のうちに終了しました。



院内の中央通路(西側)が開通しました

(仮称)中央手術棟建設に伴って建て替えを行っていた中央通路(西側)が開通しました。建て替えと並行して行っていた内装やサインの改修工事(アメニティ改修工事)も完成しました。

アメニティ改修工事の基本コンセプト

患者アメニティ改修の主なポイントは下記の点です

- 1) 安らぎの空間を演出
 - (ア) 床、腰壁を木質系材料で作りこみ、全体的に明るく、安らぎのある空間を創出した
 - (イ) 北玄関からの色調に合わせた明るい木調を採用し、全体的な雰囲気統一感を出した
- 2) 患者さんの動線をよりわかりやすく
 - (ア) ゾーニングとナンバリングを採用して、患者さん自身がアプローチしやすく、かつ案内もしやすいものとした
 - (イ) 案内サインを統一するとともに、極力、数を減らし、よりわかりやすいものとした

11月には、新棟(仮称:中央手術棟)のI期部分が竣工し、この中央通路(西側)に面して腫瘍センター(外来化学療法室)が移転、診療を開始する予定です。

引き続き、病院1階、2階の主な通路等を中心に、年次計画によりアメニティ向上のための改修工事を行ってまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。



中央通路(精神医療センターより)



案内サイン(リニューアル)



中央通路(北玄関方面より)



A病棟エレベーターホール

奈良医大自衛消防・防災隊 本部隊運用訓練を実施しました

場 所: 奈良県立医科大学 エネルギーセンター

テーマ: 大規模地震(震度6強)を想定した初期活動部隊運用訓練

5月30日(木)に、自衛消防・防災隊本部隊運用訓練を実施しました。自衛消防・防災隊は、火災や地震が発生した際に、公的な助けが来る前に初期的な消防・防災活動を行うための自衛組織です。

平日の午後に橿原市内で震度6強の地震が発生、広範囲で停電、自家発電設備稼働、井水および医療用ガス以外の水道・ガス供給停止という想定で訓練を行いました。

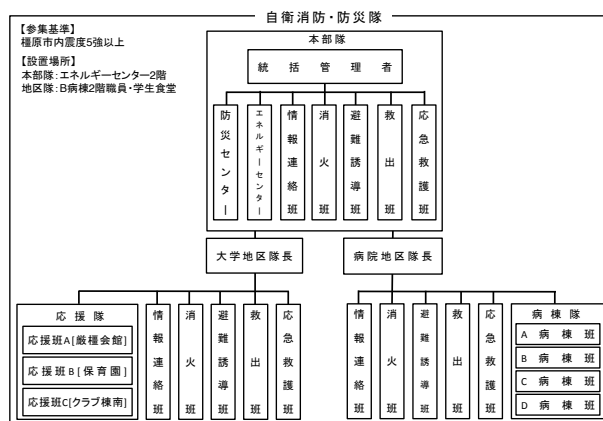
本部隊構成員に、訓練を通じて災害発生時における本部隊の活動の理解を深めてもらい、①被災状況の早期把握、②自衛消防・防災隊の活動方針の決定、③地区隊に対する指揮命令伝達の、三つの実践的な活動要領を習得してもらうことがこの訓練の目的です。

訓練後、参加者全員で検証を行ったところ、「自衛消防・防災隊にお



運用訓練の様子

ける全体的な動きがよく理解できた」との声を多く頂きました。東南海地震がかなりの確率で発生すると言われており、危機意識を持ちながら対応能力を高めていくための防災訓練が今後ますます重要となってきます。全教職員の協力体制を構築しながら、本学をあげて防災・減災体制をより一層強化していきましょう。



奈良・明日香を描いたフレスコ画を寄贈いただきました

皆さん、病院の正面玄関に入ってすぐの右側の壁に展示しております絵画をもうご覧頂けましたか。

病院の玄関周りのアメニティ改修工事の完了に併せ、フレスコ画家として知られる金森良泰先生からご寄贈頂いた作品5点のうち2点を展示させて頂きました。

金森先生は、奈良市にお生まれになり、東京藝術大学油画科、同大学院壁画科、同大学絵画研究室で研鑽を積まれた後、欧州各地を取材され、昭和52年独立展児島記念賞、昭和54年同展林賞、昭和55年同展独立賞と受賞を重ねられ、昭和56年から独立美術協会会員として活躍されています。

フレスコ画は、未乾燥の漆喰の壁に水で溶いた顔料で彩色する画法で、イタリア・ルネサンス期を最盛期としますが、日本においても明日香村にある高松塚古墳やキトラ古墳などにその原形を見ることができます。

現在展示中の飛天が舞う『石舞台輪舞』や『明日香の夢

～益田の石船～』などの作品は、金森先生が近年主要なテーマとされている奈良・明日香を描いたものであり、見応えのあるものです。

ご来院された方々をはじめ職員の皆様方にも郷愁と安らぎを与えてくれることでしょう。



絵画寄贈による感謝状贈呈式

患者・医療者間の関係の修復と再構築を目指して

医療メディエーション室 主幹 川本 たか子

平成25年4月臨床医学校舎への2階渡り廊下東側の医療サービス課の一室に、医療メディエーション室が設置され、看護師、事務職員、嘱託事務職員が配置され業務がスタートいたしました。

医療の現場では、患者さん側と医療者側の間に認識上の齟齬や誤解が生まれやすい場面が多く、時には事故や苦情等やトラブルの原因になります。多くの場合不適切な対応や説明不足等コミュニケーションエラーが要因になっています。そして1対1の対応で齟齬がさらに深まり関係性の悪化に至ります。そこで患者さん側と医療者側の対話を促

進させ情報共有を進め、認知齟齬の予防・調整を支援し、当事者の関係の修復・再構築を目標に医療メディエーションを行います。関係調整のため、中立的立場で両者の架け橋的な役割を担うのがメディエーターです。「新米メディエーター」と「これからメディエーター」が、安全・安心な医療の提供のために医療者・患者さんの両者から相談に対応します。(内線3284・3281) 出番のないことを願いつつメディエーション室で待機しています。



海外渡航者外来を開設しました

感染症センター

今年6月3日から海外渡航者外来を開設致しました。日本の海外渡航者は年間1800万人以上に上り、奈良県からも年間24万人が渡航しております。海外旅行が身近になり、高齢者から乳幼児まで幅広い年齢層が海外に行く時代になっています。またボランティア活動などで開発途上国に長期間赴く人も多くなっています。これらの旅行者には本来推奨されるワクチンや予防内服薬があるのですが、残念なことに旅行者向け医療を提供する医療機関は少なく、全員が渡航医学の恩恵にあずかっている状況ではありませんでした。その状況を改善する目的で、本学でも海外渡航者外来を開設しました。渡航者向け外来の開設は、全国の公立大学では初めての試みです。国産ワクチンのみ

ならず、世界標準の輸入ワクチンも使用できる体制を整えています。また海外の学校に留学する際の診断書作成などの業務も行っております。診療日時は月曜日と木曜日の午後で、渡航先や目的などに応じて内容をカスタムメイドするため、完全予約制とさせて頂いております。当院通院中の患者さんや大学職員の皆様・そのご家族の方などどなたでも紹介状なしで受診していただけますので、受診ご希望の方は感染症制御内科外来(内線3010)にお問い合わせください。安全な海外渡航のため努力してまいりますのでどうぞよろしくお願いたします。



若手スタッフが活躍しています!! ~看護職員リクルートチーム活動報告~

附属病院への看護職員の確保を進めるため、昨年12月に、看護部の若手スタッフを中心とした『看護職員リクルートチーム』を立ち上げました。チームは、各所属から推薦されたスタッフ19名と看護副部長、総務課で構成しており、当院に就職を希望または就職先を検討している看護学生に対して当院のPRを行う役割を担っています。

主には、企業が主催する病院合同説明会等に参加し、当院職員がどのような思いやりがいをもちて職務にあたっているかを、学生により近い立場の若手スタッフが自身の経験を通じて話すことで、当院の魅力を効果的に伝えることを目的としています。

これまで月に1回チームミーティングを実施し、効果的なPR活動のために検討を重ねました。説明会で使用する装飾やグッズについては、明るい雰囲気が伝わるように検討・制作し、また、プレゼン能力向上のため4名のスタッフが外部の研修を受講することで伝え方により磨きをかけ、その受講した内容をミーティングの中で全員に共有し説明会に参加するスタッフ各々が対応できるようにしました。

3月、4月には計5回の説明会に参加し、当院ブースにはのべ200名を超える方が集まり、多くの方に当院の魅力を伝えることができました。説明会に参加したスタッフが自ら積極的に学生と会話をしている姿は非常に頼もしく、また説明会終了後も次の説明会に参加するスタッフへそれぞれが改善点を引き継ぎする等、「当院をもっとPRしたい!」という意気込みが強く感じられとても印象的でした。

今後も当院を効果的にPRしていくためにも、チームの活動を継続的に進めていきたいと考えておりますので、引き続き職員の皆様のご協力・ご指導・ご支援の程宜しくお願いたします。



高度救命救急センター・望田 和紘「活動に参加して…」

たくさんの学生さんとの関わりで、やる気を感じることができたことや就職への不安に対してアドバイスをできたことが嬉しく思います。また、リクルートチームでの活動を通して、改めて自分のやりがいについて深く考えることができ、自己を見つめ直す良い機会となりました。

B棟8階・山口 祥永

今回、私は装飾を担当しました。装飾は「親しみやすさ」と「奈良らしさ」を表現するよう心掛けました。説明会では聞きやすい雰囲気を醸成するよう工夫しました。活動に参加し当院の教育システムやサポート体制を振り返る中、自分が新人から今まで大きな心で支えて頂いた事を実感し仕事に対するモチベーションが上がりました。貴重な機会を与えて頂いた事に感謝し、多くの方に当院の良い所を知って貰える様、活動に邁進したいと思っております。

(看護部)

緩和ケアセンターでの取り組み

緩和ケア外来は平成21年10月より緩和ケアセンターとなりました。

現在緩和ケアセンターでは、緩和ケアチームとしてのコンサルテーション活動と緩和ケア外来での診療をおこなっています。平成25年4月からは、がん看護専門看護師2名が緩和ケアセンター専従として配属となりました。

がん看護専門看護師の1名は緩和ケアチーム活動、緩和ケア外来を担当しています。緩和ケアチームは身体症状担当医師、精神症状担当医師、看護師、薬剤師、臨床心理士の多職種専門チームです。普段の緩和ケアチーム活動では医師や薬剤師とともに病棟ラウンドとコンサルテーション活動に従事しています。チームメンバーとともにそれぞれの専門に応じた知識・技術を出し合い、患者さん・家族にとってより良い医療の提供を目指しています。がんと診断された時から終末期ケア、遺族ケアに至るまで様々な病期の患者さん、その家族に対応しています。おもに疾患の進行や治療から生じる心身症状の苦痛緩和に向けての支援、告知・鎮静などの倫理的側面からの助言、家族ケアを中心にチームの一員として主治医、病棟・外来看護師と協働しながら対応しています。患者さん・家族の力を信じて、希望を支えるお手伝いを目指しています。

もう1名のがん看護専門看護師は、おもに外来患者さんを対象とした『がん看護支援』を担当しています。主治医や外来看護師、がん治療部門のスタッフと協働しながら、外来化学療法や放

射線治療を受ける患者さんの症状コントロールや心理支援、家族ケア、日常生活と治療を両立させるための支援などをおこなっています。主治医や看護師からの依頼（口頭や電話でOKです）を受け、各科外来での病状説明にも同席し病状認識の促進に向けての支援、治療や療養場所選択などの意思決定支援をおこないます。また治療期間中には、各科外来や化学療法室、放射線治療室などを訪問し、患者さん・家族への支援をがん治療部門のスタッフとともに継続していきます。専門看護師が、患者さんにかかわる各部署間の連絡・調整役を担うことで、患者さん・家族にシームレスなケアが提供できることを目指しています。このほか医療相談で行われているがん相談にも on call に対応しています。

私たち緩和ケアセンターの看護師は、「診断時から治療期、終末期を通じて、患者さん・家族の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛緩和をはかること」「患者さん、家族の“その人らしく”を大切にすること」を目標に活動をしています。

お問い合わせは、緩和ケアセンター（内線：3360）もしくは伊豆原、梅岡のPHSまでご連絡ください。



看護師インターンシップ・採用試験実施日程

病院見学会やインターンシップ（職場体験）を開催します。ぜひご参加ください。

インターンシップ (病棟スタッフの皆様、ご協力お願いいたします！)
7/24・25、7/31・8/1、8/7・8、8/21・22、8/28・29 (いずれも水・木)

試験 7/21 (日)、8/23 (金)、9/23 (祝)

必要書類や申込については、
看護部ホームページをご覧ください。

URL <http://www.narmed-u.ac.jp/~bosyu/kango/>

部門紹介

中央手術部

中央手術部は大学病院ならではの全ての科に対応し、年間7700例（平成24年）の実績があります。年々高度化する医療に伴い手術も複雑化し、顕微鏡下手術や腹腔鏡手術がどんどん増えています。手術は患者さんや家族にとって、ほとんどの方が人生の中で一度でも受けるかどうかといった大きな期待と不安をもって臨む治療です。周手術期

のなかでの一番リスクの高い分野を担当する私達は、少しでも患者さんの不安を軽減するような介入と、最良の手術をコーディネートすることを目標に、各科医師、麻酔科医師、臨床工学技士、看護師、中央検査技師、薬剤師等、他職種がチームを組んで日々努力しています。写真は緊張感あふれる手術室内の様子です。



〈腹腔鏡手術〉



〈顕微鏡下手術〉

高度救命救急センター ICU・HCU

救命救急センターとは、急性心筋梗塞、脳卒中、頭部外傷など複数診療科領域の重篤な患者さんに対して高度な医療技術を提供する三次救急医療機関です。なかでも、高度救命救急センターは、特に高度な診療機能が必要とする広範囲熱傷や指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対して救急医療を提供しており、現在全国に28か所しかありません。

当センターはICU10床、HCU28床で構成されています。ICU看護師32名、HCU看護師48名、外来看護師4名が配属され、その中に救急看護、集中ケア看護の認定看護師や呼吸療法認定士が所属しています。ICUは2:1、HCUは4:1の看護体制をとっており、患者さんや家族一人一人に密な看護を提供することが可能です。しかし、そのためには幅広い知識とアセスメント能力に加え、質の高い看護技術やコミュニケーション能力、リーダーシップが必要とされます。言い換えれば上記のことが学べる場でもあります。また、高度救命救急センターでは、重篤・重症な患者さんに高度な医療を提供するため、人工心肺装置や透析機器、人工呼吸器など最

新の医療機器が揃っているのも特徴で、臨床工学士などの他職種との連携が重要となります。

平成25年度からは、Preventable Trauma Deathと言われる防ぎえた外傷死を減らすことを目的として、ドクターカーへの看護師同乗が開始されており、看護活動が院内だけでなくプレホスピタルまで拡大しています。

救急看護師としての自覚と責任感を持ち、かけがえのない命を大切にすることに最善を尽くしたチーム医療を実践していく部署でありたいと考えています。



フレッシュマン紹介

【看護師】



B病棟4階 ^{とくだ たくや} 徳田 卓也

4月からB病棟4階整形外科病棟に配属されました。入職後から早くも3か月目に入りました。入職当初は毎日不安と緊張感を抱えていましたが、B病棟4階の先輩方は優しく声を掛けて指導して下さるため不安と緊張感も解け、今では楽しさを感じられるようになりました。

B病棟4階は、整形外科で関節・骨・脊椎・軟部腫瘍の手術から皮膚・神経の再生医療、がん化学療法まで多くの治療が行われています。そのため、術前・術後の急性期看護から退院後の生活を見据えたりハビリテーション期看護、緩和ケア看護まで幅広い看護が必要とされます。現在は術前・術後の患者さんを中心に受け持ちさせて頂いております。知識不足の部分が多く、毎日先輩方だけでなく患者さんからもアドバイスを頂き頑張ることが出来ています。一日でも早く患者さんから信頼される看護師になれるよう、笑顔と学ぶ姿勢を忘れずこれからも頑張っていきたいと思っております。

【看護師】



NICU ^{うえき めい} 植木 芽生

4月からNICUに配属となり、初めのうちはわからないことも多く、赤ちゃんが好きで希望した部署ですが、小さな命とどのように接したらいいのか、戸惑いや不安を感じることもばかりです。私が今いるのは、少し大きくなった赤ちゃんを対象としているチームで、赤ちゃんの状態や退院に向けて育児などいろいろなことに不安を抱えるお父さん・お母さんに、どのような声かけをしたらいいのか、そうした難しさに悩むこともありましたが、しかし、先輩方がいつも優しく声をかけ、熱心に指導をしてくださるので、赤ちゃんのケアや、お父さん・お母さんとも少しずつ私なりに関わることができるようになりました。また、同期に入職した仲間と情報共有をし、互いに励ましあいながら、毎日頑張っています。

少しのことで状態の急変しやすい赤ちゃんと関わるなかで、自身の知識不足や至らなさを思い知る日々ですが、どんどん成長していく赤ちゃん達のように、今日よりも明日、明日よりも明後日、と私自身も一回りも二回りも成長し、早く先輩方のような看護師となれるよう向上心と学ぶ姿勢を大切に頑張っていきたいと思っております。

【看護師】



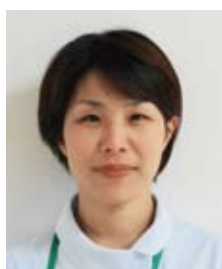
C病棟7階 ^{おshima さおり} 大嶋 彩織

4月に入職しC病棟7階に配属され3か月が経ちました。学生の頃実習させて頂く機会があり、忙しい業務の中親身に指導して下さったことが嬉しく、とても有意義な実習を送れたことからこの病棟を志望しました。

C病棟7階では心疾患・腎疾患・糖尿病など生活習慣病に関連した疾患が多いため、入院前の生活を踏まえながら指導を通じて患者さんとの関わりを大切にしています。また、急性期から慢性期・終末期と幅広く、緊急時の対応やターミナルケアも必要になります。

今は、学生の頃経験する事になかった看護師としての責任の重さや覚える業務の多さに不安を感じることも多くありますが、同期の仲間や先輩達の優しい一言に支えられて頑張っています。これからは、入院中に退院後の生活を支えていけるよう患者さんの普段の何気ない言葉にも耳を傾け、知識と経験を積み重ねて日々努力していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

【歯科衛生士】



医療技術センター 3係 ^{よしだ みわ} 吉田 美和

歯科・口腔外科に歯科衛生士として勤務しています。

歯科・口腔外科では周術期患者の口腔衛生管理を中心に、4人の歯科衛生士が業務を行っています。今まで周術期患者の口腔ケアに携わったことがなかったので、患者さんに関わってから「本当にこれでよかったのか」と心配になることがあります。先輩歯科衛生士や歯科医師に相談しながら、成長できたらと思います。

秋には周術期センターが開設される予定であると聞いています。単なる不安を、熟考に変えることが出来るよう、そして患者さんにとって有益な口腔衛生管理が出来るようにしたいと思っております。

最後に、周術期に限らず、口のことで何かありましたら口腔外科までご連絡ください。また、言葉が分からず困っているスペイン語圏の患者さんがいましたら呼んでください。入院中の同室トラブル等、通訳します。

【言語聴覚士】



医療技術センター リハビリテーション係 ^{そやま しげと} 曾山 茂人

今年度4月から入職し、医療技術センター リハビリテーション係で言語聴覚士として勤務させて頂いております。評価、訓練、他部門との連携における急性期病院ならではのスピードについていく事に慣れず、先輩方が一つ一つ丁寧に指導して頂き、気付けば入職より2か月が過ぎようとしています。また前職場では経験することができなかった疾患を有する患者さんに関わらせて頂く中で言語聴覚士が今後どのようなリハビリテーションを展開し、またその患者さんを支えるチームの一員としてどのように連携していけばいいのか、日々言語聴覚士の役割を考えています。

現在リハビリテーション係には2名の言語聴覚士が在籍しています。言語聴覚士の役割や必要性など皆様にもっと知って頂けるよう、努めていきたいと思っておりますのでお気軽にお声かけの程、よろしくお祈りします。

【臨床検査技師】

病院病理部 なかに けんじ
中谷 賢司



今年度、4月から病院病理部で勤務しています。

入職してからの2か月はあっという間に経ちました。最初は業務の流れや内容、また機器操作等おぼえる事が沢山あり、緊張して基本的な作業においても失敗することがありましたが、ようやく少しずつ慣れてきました。

まだまだ未熟なところばかりですが、先生、上司、先輩の方々にご指導いただき、助けられながらも日々頑張つて、少しでも多く貢献していきたいと考えています。これからも宜しくお願いします。

【臨床検査技師】

中央臨床検査部 まつした あきとし
松下 彰利



今年度4月から中央臨床検査部で生理機能検査を担当しています。

入職して早2か月が過ぎましたが覚えることが多く、日々上司や先輩方に助けて頂きながら、早く一人前の技師として認められるよう頑張っています。

検査部では新人教育の一環として2年間をかけて4つの部門をローテーションします。私はその間に自分に合った仕事を見つけ、将来に生かしていきたいと考えています。

初心を忘れず、患者さんのためこれからも頑張っていきます。どうか皆様よろしくお願ひします。

【診療放射線技師】

中央放射線技師 Angio-group にしぎき しょう
西崎 翔



今年度4月から中央放射線部へ入職いたしました診療放射線技師の西崎翔です。

現在、心臓・血管カテーテル検査室でAngio装置や透視装置の操作等担当しております。

在学の間、奈良の地を離れていたため数年ぶりに故郷へ帰ってきたわけですが、数年ぶりの奈良は真新しい建物や道路が増えており以前にも増して住みよい街になっていると感じました。医大の方も、放射線治療棟の新設など、益々高度医療へ向けて進展していく中で、私も同じく成長していけるよう努力していこうと考えております。

医大で働かれている医療従事者の皆さまには、病棟・検査室等でお会いする機会があるかと思ひます。まだまだ至らぬ身ゆえに細かな質問をさせていただく事もありますが、どうぞご指導の程よろしくお願ひいたします。

【薬剤師】

薬剤部 しまづ こうき
島津 光希



今年の4月から薬剤部に勤めている薬剤師の島津光希です。

誰かの役に立ちたいという気持ちから医療人をめざしました。今年の3月に行われた国家試験を無事乗り越え、今薬剤師として働いていることに大きな喜びを感じています。

薬剤部では毎日1000枚を超える処方箋の調剤をし、患者さんの元へ薬を届けています。また、取り扱う薬の種類は2200種を超え、中には取扱い等の規制が厳しいものもあります。そのような薬剤部の中で、私自身が少しでも貢献できるように、日常の業務を覚えることで今は精一杯です。

医師や看護師の方と比べると患者さんと接する機会は少ない仕事ではあるかもしれませんが、吸入指導などで患者さんと話すことがあります。患者さんが納得して帰られた時に言ってもらえる「ありがとう」の一言で仕事に一層やりがいを感じています。

いずれは病棟での服薬指導を任せいただけるような薬剤師となって、多くの患者さんと関わり、医薬品を安全かつ有効に使っていただけるよう貢献したいです。どうぞよろしくお願ひします。

【管理栄養士】

栄養管理部 にしだ なお
西田 奈央



栄養管理部で管理栄養士として勤務しております。就職して、早くも2か月が経ちました。初めての地で、初めての社会人生活を迎え不安でいっぱいでしたが、諸先輩方にとっても親切にして頂き、ようやく慣れてきました。

現在は給食管理の一部と、入院患者さんの栄養指導を行っております。病院食は種類が多く、それぞれの特徴などを把握するために、先輩方や厨房の方々に日々教わっております。栄養指導では、患者さんの発言内容や容体は一人ひとり異なるため、患者さんから学ぶことが非常に多く、毎日が勉強の積み重ねです。また、勉強会も多いため、環境にも大変恵まれていると日々感じます。将来的には、NSTや褥瘡チームなどのチーム医療にも携わり、難しい症例にも携わりたいです。

未熟で至らない点が多々ありますが、「患者さんにおいしいお食事を提供して、元気に帰ってもらう」をモットーに頑張ります。よろしくお願ひ致します。

公開講座『くらしと医学』開催のお知らせ

平成 25 年度前期公開講座『くらしと医学』を下記のとおり開催します。

申込み・受講料共に不要ですので、皆様お誘い合わせの上、ぜひご聴講ください。

日時：平成 25 年 9 月 7 日 (土) 13 時～ 15 時 30 分

場所：榎原文化会館 大ホール (榎原市北八木町 3 丁目 65-5)

プログラム：

● 精神看護学 准教授 上平 悦子

「認知症の人のために家族ができること」

概要：超高齢社会を迎え、認知症に対する関心が高まってきており、認知症が単なる老化ではないことや、早期診断による適切な介入が必要であることがわかってきました。そのようななかで、家族はどうすれば介護による負担を感じることなく、その人らしさを尊重しながら認知症の方と付き合っていくのかその具体的方法を共に考えたいと思います。

● 第三内科学 教授 福井 博

「肝臓病は隠れている～肝臓を守るために気をつけたいこと～」

概要：肝臓は「沈黙の臓器」とよく言われますが、それは病気が進行するまで目立った症状がないからで、今でも著しく進行した状態で見つかることが稀ではありません。肝臓病学の最新の知見を踏まえて、どうすれば肝臓病が早く見つかるか、正しい対処でどこまで良くなるか、日常生活で注意すべきことは何かについてお話しします。

● 細菌学 教授 喜多 英二

「健康長寿のためのバクテリアとの付き合い方」

概要：人は腸 (口腔内から大腸まで) から老いることを、ご存じでしょうか?若く健康なヒトのお腹では、『善玉菌数>悪玉菌数』のバランスが保たれています。この状態が崩れると、免疫力が低下し、老化が進行します。バクテリアは嫌われものですが、健康で長生きするためには、彼らの存在が不可欠なのです。健康長寿に必要な、バクテリアの重要性についてお話しします。

<http://www.naramed-u.ac.jp/info/openlecture.html>

(研究推進課)

第 20 回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

6 月 4 日 (火)、臨床第一講義室において、中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました。

今回の受賞者は、耳鼻咽喉・頭頸部外科学の西村忠己助教、血圧制御学の染川智講師、消化器・総合外科学の山田高嗣講師の三人で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

引き続き実施された受賞者講演会では、受賞研究テーマに沿って、西村助教が「骨導超音波聴覚の解明と臨床応用」、染川講師が「動脈形成に関わる新規膜蛋白 TMEM100 の発見とヒト疾患への展開」、山田講師が「iPS 細胞・ES 細胞を用いた人工腸管の臓器作製技術の開発」と題して講演されました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源とし

て、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内しておりますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしております。



写真説明

前列：左から西村助教、吉岡学長、染川講師、山田講師
後列：左から推薦者の細井教授、中島教授

平成 25 年度 厳榎学術奨励賞の表彰式が行われました

6 月 15 日 (土)、厳榎会館 3 階大ホールで開催された奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、平成 25 年度厳榎学術奨励賞の表彰式が行われました。

今回の受賞者は、小児科学講座の荻原建一助教で、同窓会会長・八木正躬氏より、賞状と副賞の海外留学助成金が授与されました。荻原助教は、平成 25 年 8 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日まで、カナダのクイーンズ大学リチャードソン研究所分子病理学科に留学され、凝固第 VIII 因子やフォン・ヴィレブランド因子について、分子遺伝学的解析、分子生物学的解析を通じ、生理学的意義、病態機序に関する知見を深められる予定です。

この賞は、奈良県立医科大学医学部医学科同窓会が、その目的たる母校の発展の一助とするため、海外において学術の研究、調査等に從

事する者に対し、その費用の一部を海外留学助成金として支給しているものです。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、積極的なご応募をお待ちしています。



同窓会会長・八木正躬氏より、荻原建一助教へ表彰状の授与



荻原建一助教による受賞者挨拶

レポート（役員会及び教育研究審議会の報告）

第1回 役員会（4月3日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 卒業生の進路等について
 - (3) 入学者の状況について

第1回 教育研究審議会（4月4日）

- 1 教員人事について、5月1日付け昇任を承認
- 2 卒業生の進路等を報告
- 3 入学者の状況を報告

第2回 役員会（4月17日）

- 1 医療技術センターの副技師長の採用を決定
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 平成25年度文部科学省科学研究費助成事業の交付内定状況について

第3回 役員会（4月24日）

- 1 中央診療施設長等（4月1日付け中央臨床検査部長・医療情報部長（いずれも病院長兼務）、4月3日付け医療安全推進室長、4月1日付け医療機器安全管理責任者）の病院長発令を報告

第4回 役員会（5月1日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
- 2 各種委員会委員の改選について理事長の指名による委員の選任を報告
- 3 5月1日付け中央臨床検査部長の病院長発令を報告

第5回 役員会（5月8日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 再任審査委員会審査結果について
 - (3) 教員の海外留学について
 - (4) 編入学試験について

第2回 教育研究審議会（5月9日）

- 1 教員人事について、5月31日付け退職、5月9日付け・6月1日付け採用を承認
- 2 6月30日付けで任期満了となる任期制教員のうち再任申出のあった助教4名、講師1名の再任を承認
- 3 教員の海外留学について消化器・総合外科学 野見助教及び放射線医学 市橋助教の海外留学を承認
- 4 平成25年度第2年次編入学試験の実施方針を承認
- 5 各種委員会委員の改選について学長の指名による委員の選任を報告
- 6 平成25年度文部科学省科学研究費助成事業について4月1日現在の採択状況を報告

第6回 役員会（5月22日）

- 1 平成24年度決算に伴う債権償却（案）を決定
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員の人事について
 - (2) 教員の海外留学について
 - (3) (仮称)公立大学法人奈良県立医科大学研究推進戦略本部の設置について
 - (4) (仮称)公立大学法人奈良県立医科大学特別共同研究助成事業の創設について
 - (5) (仮称)公立大学法人奈良県立医科大学若手研究者研究助成事業の創設について
 - (6) 外国人客員研究員の受入れ期間変更について
- 3 平成24年度監事監査の結果を報告
- 4 平成24年度内部監査の結果を報告
- 5 情報システム運営委員会委員の選任を報告
- 6 5月9日付け医療情報部長の病院長発令を報告

第7回 役員会（5月29日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 株式会社タカトリとの産学連携に関する包括協定の締結について
- 2 看護職員採用試験において5名（7月1日採用予定）の合格者を決定

第8回 役員会（6月5日）

- 1 緩和ケアセンターへの臨床心理士の配置を決定
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教授選考について
 - (2) 教員の人事について
 - (3) 平成24年度及び第1期中期目標期間に係る業務実績報告書（案）について
 - (4) 大学機関別認証評価に係る自己評価書（案）について
 - (5) 医学科カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーについて
 - (6) 平成25年度講座・教員研究費の配分について
 - (7) 平成25年度医学科第2年次編入学試験の実施について
- 3 平成26年4月採用予定の看護職員採用試験において23名の合格者を決定

第3回 教育研究審議会（6月6日）

- 1 教授選考（細菌学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、輸血部、総合医療学等）の開始について承認
- 2 教員人事について、6月30日付け退職、7月1日付け昇任、7月1日付け採用、7月1日付け配置換えを承認
- 3 教員の海外留学について耳鼻咽喉・頭

頸部外科学 清水助教の海外留学、精神医学 紀本助教の海外留学の期間延長を承認

- 4 平成24年度及び第1期中期目標期間に係る業務実績報告書（案）を承認
- 5 大学機関別認証評価に係る自己評価書（案）を承認
- 6 医学科におけるカリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）及びディプロマポリシー（学位授与方針）を承認
- 7 6月1日付けの臨床教授等の選考について承認
- 8 公立大学法人奈良県立医科大学研究推進戦略本部の設置を承認
- 9 株式会社タカトリと産学連携に関する包括協定の締結を承認
- 10 平成25年度講座・教員研究の配分を承認
- 11 平成25年度医学科第2年次編入学試験（地域基盤型医療教育コース、研究医養成コース）の実施を報告
- 12 公立大学法人奈良県立医科大学特別共同研究助成事業の創設を報告
- 13 公立大学法人奈良県立医科大学若手研究者研究助成事業の創設を報告
- 14 放射線医学教室で受け入れているドイツからの外国人客員研究員の受入期間の変更を報告

第4回（臨時）教育研究審議会（6月18日）

- 1 教授選考（細菌学、耳鼻咽喉・頭頸部外科学、輸血部）にかかる教員からの意見聴取を実施

第9回 役員会（6月19日）

- 1 平成24年決算（案）を承認
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 第1期中期目標・計画期間及び平成24年度の業務実績報告書（案）について
 - (2) 第1期中期目標期間の事業報告書（案）について
 - (3) 教員の人事について
 - (4) 奈良県立医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究管理規程及び同倫理審査委員会規程の改正について
- 3 緩和ケアセンターに配置予定の臨床心理士採用試験において1名の合格者を決定

第10回 役員会（6月26日）

- 1 危機管理体制の整備として危機管理規程の制定等を承認
- 2 治療成績の一層の向上を図るため医療の質評価委員会規程を承認
- 3 給与改定等について承認

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
竹下 泰史 助教 (小児科)	毎日新聞 朝刊 4月12日(金)	入院中の患児にスポットをあてた記事である。つらい小児がんの闘病生活中でも夢をもってがんばっており、希望と勇気を与えてくれる内容です。すべての患者さんがこうあって欲しいと思い取材に協力しました。
大林 賢史 特任講師 (地域健康医学)	日本テレビ 『世界一うけたい授業』 4月27日(土) 日本テレビ 『スクール革命!』 5月5日(日)	「今夜明かされる睡眠障害の新真実! 明るい部屋で寝ると太ってしまう!」のテーマの中で、大規模疫学研究(平城京スタディ)により明らかになった夜間低照度光曝露と肥満の関連に関する研究内容が取り上げられました。 「100人アンケート! あなたはどっち派!」のテーマの中で夜間低照度光曝露と肥満の関連に関する研究内容が取り上げられました。
杉江 和馬 講師 (神経内科)	読売新聞 朝刊 5月5日(日)	「病院の実力」の【神経難病】特集で、当院神経内科での実績と診療内科での実績と診療内容を紹介しました。パーキンソン病、多発性筋炎などの代表的疾患や、厚生省研究班長として取り組む「自己食空胞性ミオパチー」という難病の病態について解説を行いました。
酒井 宏水 教授 (化学)	関西テレビ 『スーパーニュースアンカー・ 須田慎一郎のニュースな裏話』 5月20日(月)	日本赤十字社によれば、2027年に100万人分の血液が不足するとのこと。これを解決する切り札?として「人工赤血球(ヘモグロビン小胞体)」の研究が紹介されました。血液型がなく、感染源を含まず、備蓄できるので、何時でも何処でも必要な時に誰にでも投与できる製剤として期待されます。
田中 康仁 教授 (整形外科) 田岡 俊昭 准教授 (放射線科)	NHK 『ならナビ』 5月30日(木)	「纏向遺跡の布製品 最新技術で中身に迫る」と題して、纏向遺跡から発見された布製品に対するMRIやCTなど最新医療機器を用いての解析結果や解説を行いました。
田中 康仁 教授 (整形外科)	読売テレビ 『情報ライブ ミヤネ屋』 6月12日(水)	女性の9割が悩みを抱える“足のトラブル”、素足になるこれからの季節 アナタの“足”は大丈夫?という特集で、私が専門とする“足の外科学”の立場から、外反母趾を中心として足部疾患の対処法について、生放送のスタジオで解説いたしました。
大崎 茂芳 特任教授 (皮膚科)	テレビ東京系列 『ワールドビジネスサテライト』 6月12日(水)	「天然」のクモの糸が実際にどれだけ強く伸縮性があるかについて、また、人工をいかに天然なものに近づけるかといった課題について解説を行いました。
岡山 弘美 園長 (なかよし保育園)	毎日新聞 朝刊 6月12日(水)	Oh! My job (私の仕事) 欄に、病と闘う親子サポートを積極的に行う保育園長として掲載されました。病と闘い、障害を抱える子どもたちへの保育士の支援について紹介しました。子どもたちへの支援には愛が大切で、今後に取り組みなければならぬことについて語りました。

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.narmed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)

下ッ道 (編集後記)

降れば豪雨、晴れば猛暑で今年は梅雨らしい梅雨がなかったですね。この学報がお手元に届く頃には、そんな梅雨も明けセミが鳴き始めているころでしょうか。

さて、私は部長を務める柔道部の練習に時折参加しています。夕方18時頃、雷雨に打られたかのように汗だくのふらふらで基礎棟に戻る柔道着姿を目撃した方もおられるかもしれません。部員数減に悩むクラブの新入部員獲得に貢献するため、年々自分との年の差が離れていく学生達との練習に備え、日々トレーニングに励んでいます。

今村 知明

- 今村 知明 (健康政策医学)
- 笹平 智則 (分子病理学)
- 藤本 雅文 (物理学)
- 橋本 顕子 (精神看護学)
- 堀口 陽子 (看護部)
- 藤谷 威行 (研究推進課)
- 永井 淳 (教育支援課)
- 吉田 一良 (病院管理課)
- 森田 英之 (総務課・広報室)
- 植松 聡 (総務課・広報室)
- (○印は編集委員長)